

小江戸塾20周年記念誌

『小江戸塾』10年の歩み

(2012年度～2021年度)



川越シニア大学 『小江戸塾』

表紙の絵

作者 鈴木 勝信 氏

愛知県出身。坂戸市在住。

彩の国 いきがい大学 川越学園 第36期校友会会長。

表紙の2つの絵は、小江戸塾20周年記念誌の製作にあたり、作者の鈴木勝信氏が使用を快諾してくださり、鈴木氏の知人で小江戸塾理事である佐藤民雄氏を通じて提供されたものです。

どちらの絵も、サインペン画に水彩を施して小江戸・川越のシンボルともいえる風景を描いたもので、本記念誌の表紙を飾るにふさわしいといえましょう。中でも、旧埼玉りそな銀行川越支店（現埼玉りそな銀行川越支店蔵の街出張所）のドーム状の屋根を彩る緑青色は大変印象深く、本記念誌のタイトルもこの色に合わせてみました。

貴重な作品を提供してくださった作者の鈴木勝信氏のご厚意に、深く感謝いたします。



「小江戸塾」マークについて（2008年11月制定）阿部 恒男氏 作

全体イメージ：川越市のイメージを継承

シンボル：鐘つき堂、家族社会構成のバランス

※個々の表現

鐘つき堂：川越市と一環活動の表示

3個の丸：住民（3世代／社会構成のバランス）

大リング：市、住民社会との触れ合い（手を取り合う）

真中の小江戸塾：地域社会の中で主体性、また地域から求められる存在

〈 裏表紙ロゴの説明 〉



「市のシンボルマーク」
時が人を結ぶまち川越



「市制施行 100 周年記念ロゴマーク」
時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越

〈 掲載写真について 〉

原稿と一緒に提供頂いた写真のうち一部の写真については、ページ編集の都合により割愛させて頂きました。また、文章のみの原稿においてページ余白がある場合には、皆様から提供頂いた写真の中から原稿内容にふさわしい写真を選び掲載させて頂きました。この場合、原稿作者と写真提供者が異なりますがご了承ください。

川越シニア大学『小江戸塾』20周年記念誌

『小江戸塾』10年の歩み

(2012年度～2021年度)

発行日 : 2022年(令和4年)9月1日

発行 : 川越シニア大学『小江戸塾』

会長 鈴木 二郎

編集 : 小江戸塾20周年記念誌編集委員会

印刷 : 日本ワントゥワンソリューションズ株式会社

川越市脇田本町 6-31 KJ 第2ビル

時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越



「『小江戸塾』20周年記念誌」発行にあたって

川越シニア大学『小江戸塾』

会長 鈴木 二郎

川越シニア大学『小江戸塾』は、平成12年11月に川越市の主催により、シニア世代を対象に生涯学習の一環として開催され、川越の歴史・自然を題材に川越を伝える学びをしました。その後平成14年3月に終了した第一期修了生の有志により「小江戸塾同窓会」を平成14年5月22日に設立しました。平成16年度から講座名が「川越シニアカレッジ『ふるさと塾』」と名称を変え、継続して講座修了生等も会員に迎え『小江戸塾』の拡大・充実をしてまいりました。

平成24年度には設立10周年を迎えて、記念事業として「『小江戸塾』10年の歩み」を発行しました。

川越シニア大学『小江戸塾』は10周年経て、平成27年度から「ふるさと塾」は川越市との共催事業として現在に至っています。私たち『小江戸塾』の仲間は今までの経験・知識を生かして、公民館や小学校等で体験学習などのボランティア活動を行ってまいりました。

この度設立20周年にあたり、これまでの活動実績や出来事を振り返り、また、川越市や世の中の出来事を出来る限り掲載しました。これまでに物心両面にわたりご協力、ご支援頂いた川越市役所の方々・関係者の方々や会員の皆様様に心から感謝申し上げます。今後とも皆様が益々元気で楽しく活躍できることに繋がれば幸いです。



目次

4. ふるさと塾の思い出	73
ふるさと塾の運営と参加	
／田中喜久雄／田中哲夫／新取守正／古山廣子／恵 敏雄	(73)
／河村広雄／中島義則／仁平三枝子／中島裕子／土屋良彦	(78)
5. 写真集	82
(イベント写真) バーベキュー大会、クリスマス・フェスティバル	(82)
(運営関係写真) 小江戸塾定期総会、理事会	(83)
仕訳作業、小江戸塾説明会、活動打合せ	(84)
資料編	
1. 川越シニア大学『小江戸塾』会則／細則	86
2. 小江戸塾会員状況	89
3. 歴代役員名簿	90
4. 年表 / 平成24年度(2012年度)～令和3年度(2021年度)	92
編集後記(編集委員長 林 和博)	102



お祝いの言葉

川越市長
川合 善明

このたび、川越シニア大学『小江戸塾』が、設立20周年の記念すべき年を迎えられ、ここに20周年記念誌を発行されますことを心からお祝い申し上げます。

『小江戸塾』は、「学び合い支え合う学習を、世代を超えて進めていこう。」をスローガンに、市民企画委員と行政が企画した講座の修了生有志が、平成14年5月に設立した団体と伺っております。そして、今日に至るまで、これまでの経験や生涯学習の講座で学んだ知識を基に、子どもたちが自然や人、伝統文化などにふれあうための様々な体験学習の場を提供するなど、地域社会活動に多大な貢献をされてこられました。これは、関係者の皆様方の絶え間ないご努力とご尽力の賜物であり、深く敬意を表するものであります。

現在、我が国は、「人生100年時代」という人類史上例を見ない「超長寿社会」に向けて大きな転換点を迎えてつつあります。そのような中であって、今後、更に活力ある地域社会をつくっていくためには、今まで以上に高齢者の社会参加が必要となっております。その実現には高齢者が長い人生の中で培った経験と能力を生かし、元気に活躍し続けられる社会をつくることが求められており、『小江戸塾』は、そのような超長寿社会を支える地域の中核的な組織として、今まで以上に重要な役割を果たすものと考えております。

さて、令和4年は、本市にとっても市制施行100周年という大きな節目の年となります。これまでの100年の歩みを振り返り、先人の功績をたたえとともに、川越への愛着を深め、高い誇りを持てるまちを目指してまいります。今後とも『小江戸塾』の皆様にもご協力をいただきながら、世代を問わず全ての市民が地域で安心して生き生きと暮らすことのできる、明るく活力あるまちをつくっていききたいと考えております。

結びに、『小江戸塾』の更なるご発展と、皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



お祝いの言葉

川越市文化スポーツ部長
岸野 泰之

この度は、川越シニア大学『小江戸塾』設立20周年、誠におめでとうございます。これまでの皆様の御尽力に敬意を表します。

また、『小江戸塾』と本市が主催する『ふるさと塾』では、これまで多くの卒業生を輩出するとともに、学校や公民館などにおいては、子供たちへ知識や技術、知恵を伝える学習をご支援いただき、感謝申し上げます。

現在、当時全く予想のできなかった新型コロナウイルス感染症が世界的にまん延し、国内におきましても、緊急事態宣言の発令に伴う不要不急の外出自粛要請や営業自粛要請などの感染拡大防止対策が行われ、本市においても多くの市民が多大な影響を受けております。『ふるさと塾』におきましても令和2年度から現在に至るまで中止という事態になっており、フィールドワークやグループワークができないなどの課題の克服が求められております。

さらに、わが国は少子高齢化が進み、本格的な超高齢社会が到来しています。本市におきましても、高齢化率は27%を超え、市民の約4人に1人が高齢者という状況です。20年前の高齢化率が約13.5%ですので、ここ20年で2倍になり、急激に高齢化が進みました。今後も高齢化率の上昇が続くことが見込まれ、活力ある地域社会づくりを進めるためには、高齢者の社会参加が極めて重要となってきております。

近年、新聞やテレビなどのメディアで「人生100年時代」という言葉をよく見聞きするようになりました。「人生100年時代」を見据え、全ての人が生涯を通じ、自らの人生を設計し活躍できるよう、現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進やリカレント教育の強化、高齢者の生涯学習の推進などの取り組みが求められており、『小江戸塾』の役割はますます高まるものと思われまます。

今後も市と連携を図りながら、地域社会における教育力の充実を目指して、次の10年の節目に向けての御活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



シニア大学「小江戸塾 20 周年誌」祝辞

川越シニア大学『小江戸塾』
元会長 金子 晃

小江戸塾 同窓会発足 20 周年おめでとうございます。

人生 100 年の言葉が社会に出回っている寅年。83 才になり、社会活動ボランティアを続けられるとは、思いもよらない人生を過ごしています。小江戸塾が発展を続けてこられたのも、魅力ある社会活動と仲間作りが繋がったことと思っています。会報が毎月配達員の手で届く小江戸塾会報の活動には敬服しています。行事案内の世話人の名前を見ると「やってるね」と思っています。私と小江戸塾との出会いは、第一期小江戸塾が開かれる時に生涯学習課の方から、川越の歴史文化「巨樹古木めぐり」の講師として呼ばれたのが端緒でした。川越市の職員から、川越市市制 80 周年記念として、冊子作りの協力を依頼された事もその一端になっています。体験学習が主体の小江戸塾は、なんと面白い学習なのだと思います、平成 14 年度の第 2 期小江戸塾塾生として参加。多くの塾生と知り合える事が出来、今日に至っています。川越市が小江戸塾学習を 1 年間の休みとした後、「ふるさと塾」として生涯学習を再開したので、運営委員長を引き受け 3 年間で約 90 名の方に小江戸塾に参加して頂いた。小江戸塾同窓会の会長も 1 年間引き受けましたが、兼務は無理と「ふるさと塾」運営委員長に専念することにしました。川越市が当初に構想したのは地域学校応援の人材作りでした。私の住む霞ヶ関北地区では、伊勢原公民館長から、「地域子どもサポート委員会」の委員長に立候補を求められ引受けました。地域の学校応援団として、学校依頼の体験学習を行う学校ボランティア作りの活動として、地域で行う「子どもフェスティバル」を開催、地域ボランティアに参加を頂き、学校応援に参加してもらえました。また、学校区内での活動として、霞ヶ関東小学校の協賛で「水辺の自然体験楽校」霞ヶ関東中学校から、学校の文化祭で「ふれあい体験講座」の開催を依頼され、地域の様々な 14 のボランティアグループにご協力を求め 15 年続けています。また、社会福祉協議会からの依頼で「車椅子体験」、目の不自由な体験を行う「アイマスク体験」を小学校中学校に出向き、体の不自由な方への思いやりを育てる体験学習を 13 名の仲間で、年間 13 校で開催しています。自分が支援を受ける年代なのには思いながら、「小江戸塾」「ふるさと塾」で、学んだことを次世代につなげることは、年齢を超えて生きる力になっています。小江戸塾の皆様も次世代につなげる活動で、さらなる発展を進めてください。



「小江戸塾」 創立 20 周年に寄せて

川越シニア大学『小江戸塾』
前会長 大久保 彦

川越シニア大学「小江戸塾」創立 20 周年を迎えることができましたことは誠に喜ばしくお祝い申し上げます。

私は「ふるさと塾」自然・環境コースを 18 年度に終了したので、即、「小江戸塾」に入会しました。この塾の活動は同窓会(クラブ・同好会)と地域活動と「ふるさと塾」が三本柱。

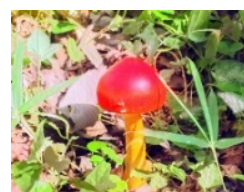
私は理事として地域活動を担当してきました。先輩の故鎌田氏から「小江戸塾」の極意を学びました。

川越シニア大学「小江戸塾」は各公民館の「高齢者学級」と異なり、今まで会社等で培った知識や技術と「ふるさと塾」で学んだ事を生かして地域に貢献することでした。私たちシニアが川越の歴史、文化・自然について子供たちに伝えていくことが使命だと考えています。特に、他の団体でやれない手作りの「ペットボトルロケット」の作り方と飛ばす実践の後の子供達のアンケートに「またやりたい」「楽しかった」の声が多数をしめた。

小畔川自然探検の手作り「筏」に乗って川下り体験で子供達が感動したのを覚えています。川越市主催の「ふるさと塾」を「小江戸塾」が企画・運営を請負いました。市からの委託が終了したのち、市から独立して「ふるさと塾」の運営を我々が実践をしています。この塾の特徴は毎月発行される月報(理事会やクラブ報告)を郵送せずに会員による会員への月報配達制度です。

「小江戸塾」10 年の歩みの記念誌を発行した仲井謙介氏から「小江戸塾」創立 20 年の歩みを作成すると言われていましたが、健康上の都合で会長を降りました。今回、現役会員から創立 20 年のあゆみの記念誌を作ると言われて嬉しくなりました。

大久保彦さんは
令和 4 年 1 月 5 日にご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈りします。





「小江戸塾」 20周年を迎えて

川越シニア大学『小江戸塾』

会長 鈴木 二郎

このたび川越シニア大学「小江戸塾」設立20周年にあたり、会員の皆様と喜びを分かち合いたいと思います。そして設立から現在に至るまで御尽力頂いた、川越市役所の方々をはじめとして関係者の方々に敬意と感謝を申し上げます。

「小江戸塾」の活動はシニア世代が、明るく、楽しく、健康的に活動して、人生で培ってきた経験を活かしながら、社会活動を通して地域に少しでも貢献出来ればという考えで活動をしています。会員の皆様が活動を通して様々な場所で活動の輪が広がっています。

「小江戸塾」は ①会員同志の親睦を目的とした同窓活動 ②公民館での子供たちを対象とした体験事業「伝承行事・伝承遊び」や小学校の学習支援などの地域活動 ③新しい仲間づくりとして「ふるさと塾」の開講を3本柱として活動しています。

「小江戸塾」の活動にあたっては川越市の多くの皆様にご協力、ご支援を頂いており、心から感謝申し上げます。

結びに、これからも「小江戸塾」の活動を発展させて次代に繋げられるように努力したいと思います。





「20周年に寄せて」副会長として

川越シニア大学『小江戸塾』

副会長 田中 喜久雄

「小江戸塾」は、諸先輩会員の努力によって、活動基盤が確立され、更なる組織活動の活性化と持続化の取組みによって20周年を迎えることになったと思います。

現在「小江戸塾」は、親睦と地域活動の促進を図ることを目的として、①「同窓活動」、②行政との協働事業である「ふるさと塾の運営」及び③「地域活動」の3活動を三位一体として、安定的且つ持続可能な運営を行っております。

「小江戸塾」が30周年に向けて進むためには、今後も3本柱である同窓・ふるさと塾・地域の3活動を安定かつ持続性のある運営が如何に長く続けることができるかが重要であると考えます。

そのためには、次の2つの方策が必要ではないかと思えます。

- ① 同窓活動の種類を増やして、会員同志が楽しむ
- ② 会員が積極的に地域活動に参加して、子供の育成と地域社会への貢献に寄与する

私は、セカンドライフを充実させるためには、現役時に、自分の自治会に参加し、定年後は地方自治体レベルの地域活動に参加するとの教えをモットーとしています。

そのため、2015年にふるさと塾に入塾し、小江戸塾の会員になりました。2016年度より地域活動担当理事及びふるさと塾運営委員として小江戸塾の運営に微力ながら協力させて頂いています。

この2年間は新型コロナ禍のため、緊急事態宣言等が発令されるたびに、小江戸塾自体の活動・ふるさと塾運営・地域活動が突然中止せざるを得なくなり、「小江戸塾」全体の活動が大変制約されたことです。来年以降はコロナ禍がないことを祈るばかりです。

また、諸先輩会員の高齢化も気になる点ですが、2022年度のふるさと塾が再開でき、会員増に期待したいと思います。

これからも、私は「自楽」、「互楽」、「共楽」を目標にして、小江戸塾の同窓活動・ふるさと塾運営・地域活動の3本柱が安定且つ持続的運営が続くように、微力ながら協力していく所存であります。

小江戸塾 20 周年を迎えて



川越シニア大学『小江戸塾』
副会長 林 和博

小江戸塾は本年20周年の記念すべき年を迎えました。川越市シニア大学小江戸塾を修了された有志で同窓会として発足し、諸先輩方のご努力でこれまで維持、拡充がなされてまいりました。各代会長はじめ、諸先輩方に感謝し、会員の皆様とともに、お祝いをいたしたく存じます。

現会員230数名の皆様の中には小江戸塾発足時からの1期生、2期生の皆様が少なからずいらっしゃいます。同窓活動、地域活動にも積極的に参加され、若い会員が叱咤激励をされる局面がよく見られます。人生百年の時代、60、70歳は鼻たれ小僧、80歳からが本当の活躍時期なのかもしれません。

小生はふるさと塾の運営に携わって7年目になりますが、4年前の受講生に山田一男さんという満89歳の方が入塾されました。姿勢もよく、受講する姿も声も若々しく、とてもご高齢には見えませんでした。次年度からは運営委員として事業を支えて頂いております。昨年、その山田さんから東日本大震災の復興事業を数次に亙りつぶさに見学してきたので、塾の皆さんに報告をしたいという意思を伝えられ、準備を進めてきましたが、ご本人が少々体調を崩されたのと、新型コロナウイルス対策のため会場が設定できず中断しております。是非、お元気になられて、矍鑠たる姿を見せていただきたいと祈念しております。

本年は1947年～49年に生まれた団塊の世代が75歳を迎える最初の年に当たります。「2022年問題」と言われます。およそ800万人、最近3年の出生者の約3倍、医療、介護にかかわる人材不足が叫ばれております。昨今、高齢者の認知症をはじめとする加齢に伴う疾病、医療費の高騰、年金の原資問題不足、年金生活者の貧困化等、私たちを取り巻く環境は必ずしもバラ色とは言えません。

小江戸塾の会員の皆さん、率先して塾の活動（地域活動、同窓活動、ふるさと塾）に参加していただき、人と交わり、行動し、心身ともに若さを保ち健康寿命をのばし、人生を謳歌して行きましょう。



よりよい『小江戸塾』のために・・・ 「事務局」

川越シニア大学『小江戸塾』
事務局長 伊藤 敏介

「小江戸塾」に入会（2012年）し「10周年記念誌」を手にして丁度10年、「小江戸塾」は今年20周年を迎えます。会員数も190名から現在240名に増え、一步一步成長をしているといえます。

その中で我々「事務局」の立ち位置は、川越に根差した公民館・学校支援（地域活動）、会員の交流の場（同窓活動）、そして新たな会員への助走ともいえる学びの場（ふるさと塾活動）の三本柱を支える、「縁の下の力持ち」「小江戸塾の”要”」の役割を担っていると自負しています。そして何より、会員の皆さんが「楽しく」「前向きに」「自由に」「気楽に」そして「安全に」参加できる「仲間の輪」としての『小江戸塾』を目指したいと思っています。

事務局の具体的な業務としては、毎月一回の「理事会」（第一金曜日）・「サロン（月報発送・会員の交流の場）」（第三月曜日）の運営、年一回の「定期総会」（4月下旬）の取りまとめ・・・など、いわゆる「なんでも屋」的な役割を担っているような感は正直ありますが、その目指すところは一つ、会員の皆さん「全員」が「ひとつになって」あるいは「それぞれの”かたまり”になって」楽しく過す、「仲間の輪」の広がりを実感させることです。

しかし、残念ながら実際の活動に参加されている方は、現在三分の一くらいかと思われまます。せっかく会員（仲間）になったものの、参加できずにいる方へのアプローチ（お誘い）も踏まえて、同窓活動では、皆さんの趣味・特技・「やってみたい」ことなどのご意見を集め、広範囲にサークルづくりを推し進めています。また、前述の「サロン」では、ミニコンサート・講演会・講習会・ゲームなど、会員の皆様のご意見と興味を反映したさまざまな企画を提案したいと思っています。

事務局では月一回「事務局打合せ」（第四金曜日）を開いており、よりよい「小江戸塾」への足固めの知恵を絞っています。皆さんからの率直なご意見・ご要望・ご質問などをぜひお寄せいただけたらと思います。

これからもずっと、もっともっと楽しい「小江戸塾」に、会員全員の力を合わせて育てていきたいと思っています。皆さまのご協力と活動への参加をお願いいたします。

活動の思い出

1. 活動10年の歩み

地域活動

地域活動担当理事 田中 喜久雄

地域活動は諸先輩会員が築かれた基礎に立って、組織活動の活発化と持続化により、20周年を迎えることができました。

地域活動はこの20年間、行政との協働作業・公民館事業として、中央公民館・伊勢原公民館等で小学生を対象に、小江戸塾が主体的に関わり、児童育成を通して地域社会に貢献出来ました。

この10年間の地域活動は次の項目で会員皆様のご支援により学校支援と公民館支援を企画・実施して参りました。

1. 学校支援

仙波小学校4年生総合学習 「新河岸川探検」

2. 公民館支援

① 中央公民館 「まちで遊ぼう」

★伝承行事***七夕祭、節分会、餅つき、折紙でお雛様

★伝承遊び***折紙・お手玉、竹馬・竹とんぼ・水鉄砲、凧揚げ

★ペットボトルロケットを作ろう

② 伊勢原公民館

★小畔川自然探検隊

★ペットボトルロケットを作ろう

★餅つき（2019年からは中止）

③ その他（公民館からの別途依頼）

★中央公民館***チャレンジ体験会

★北公民館*****環境まつり

特に、公民館事業支援は、行政の事業に協働参画することから受託事業収入を得ており、小江戸塾運営費の一部を賄っております。

地域活動はこの2年間コロナ禍のために制約を受け、緊急事態宣言の発令・解除の度に公民館事業が急遽中止になったり、再開されたりで支援者の確保に苦労しました。また、支援頂く皆様にご迷惑かけました。

地域活動は支援戴いた会員の方の高齢化のため、支援者の固定化の傾向が見られます。また、ふるさと塾が2年間コロナ禍で開催されず、新規会員の加入がなかったことも影響しているかもしれません。

最近の傾向として、参加児童は低学年の割合が大きくなり、そのため支援の増員が必要になっています。まずは多くの会員の方に参加して頂き、実施内容を体験して、他の会員の方に地域活動への参画を促して頂けたらと思います。

同窓活動 アンチエイジングに貢献

同窓活動担当理事 亀山 薫

人生の後半に入り、誰もが意識するのは「老化（エイジング）」ではないでしょうか。気持ちの上では若いと思っけていても、足や腰、目、耳をはじめ体のあちこちに変調が起こって来るのはやむを得ない事だと思います。

ところで世界保健機関（WHO）は2019年5月、改訂版国際疾病分類の中に「老化関連」という項目を加えました。つまり「老化は病であり、治療や予防ができる可能性がある」と考えられるようになったのです。現在、科学的にアンチエイジングの効果が実証されているのは運動だけですが、様々な研究が進められています。

ある新聞の「男と女のアンチエイジング」で2人の専門医が、ホルモンがいかに重要な働きをしているかを語っています。男性のアンチエイジングには、テストステロンを高め、維持することが重要であり、女性ではホルモンのエストロゲンが髪の毛、肌、血管、コレステロール、脳、免疫、骨などにかかわっていて、男性以上にホルモンが大きな役割を果たしているといっています。

そのために、共通しているのは適度な運動、十分な睡眠、バランスのいい食事、体重のコントロールが重要と言います。また、特に、これらのホルモンを高めるには、人生における「目的」があること、毎日を楽しく、有意義に過ごす重要性を強調しております。

幸いにも、私たちは小江戸塾に出会いました。中でも同窓活動のクラブ、同好会（以下サークルと称す）活動は会員同士の親睦と交流をはかり、会員の生活の質を豊かなものにするとともにアンチエイジングに貢献してきたことは間違いありません。

20年を迎えた小江戸塾には、現在12のサークルが活発に活動を続けています。

同窓活動の活動の歩みはそれぞれのサークルの欄に譲ることにしますが、この20年間、同窓活動で大きな事故が無く続けてこられたのは、会員の皆様の協力とともに、サークルの世話役の皆様の献身的な努力のたまものだと考えております。

さて、同窓活動の活性化には、既存のサークルを知ってもらい参加者の増加を図ることと同時に、新しいサークルをもっと幅広く作る事だと思っけています。理事会では、昨年末に会員アンケートで、同窓活動で参加したいサークルの希望を聞いております。この記念誌が発行される時期に1つでも新しいサークルが増えていることを願っています。

毎日を楽しく、有意義に過ごすことができるよう皆さんとご一緒に同窓活動を活発にししていきたいと思っけています。

小江戸塾（ふるさと塾）とわたし

ふるさと塾担当理事 林 和博

川越シニア大学『小江戸塾』が無事に20周年を迎えることができましたこと、まことに感慨深く、会員の皆様と共にお祝いをいたしたく存じます。

また、小江戸塾の礎を築いてくださいました初代会長の仲井謙介氏を始め各代の会長、ことにご指導いただいている現会長の鈴木二郎氏、理事、ふるさと塾運営委員及び会員の皆様の並々ならぬご尽力に感謝申し上げます。

小生は埼玉県主催いきがい大学の時に、クラスメイトでふるさと塾の運営に携わる方から小江戸塾の話を聞いて、平成26年度に入塾しました。27年度にふるさと塾運営委員、28年度から同運営委員長、令和2年には併せて小江戸塾副会長も仰せつかり現在に至っております。川越市が運営主体の頃の塾については先輩からのお話や「小江戸塾10年史」で拝見して、その歴史をよく伺っております。

現在、ふるさと塾は川越市文化芸術振興課との共催にて運営されております。会場の確保、入場料の減免、職員講師の依頼、バスの手配、広報への募集案内掲載、応募者のとりまとめ等については市にお願いし、市施設以外の会場確保、講座の内容、講師依頼、講師料及びプログラム、運營業務等については運営委員会が行う棲み分けができております。ふるさと塾の運営は委員の自主性を重んじ、委員が楽しめる企画を推奨しております。委員が楽しめなければ、塾生が楽しめる企画が出来るはずがないという思いがあるからです。

川越市民の故郷への思いを呼び起こし、文化・芸術、自然・環境、産業・観光を学びそれを子供たちに伝承していくという理念は継続されております。ふるさと塾修了生の多くが小江戸塾に加入し、現在240名弱の会員が地域活動、同窓活動、ふるさと塾で活動しております。

新型コロナウイルス禍により、会場の使用条件の厳格化及び入場人数制限があり、令和2年度、3年度の川越シニアカレッジ「ふるさと塾」が中止となりました。ほぼ準備が完了した中での中止は慙愧に堪えないものがありました。しかし、市民の皆様からもふるさと塾はいつ再開するのかとの声を多数聞き、沈んだ心に一筋の光を照らす希望の星でした。

更に、次の十年に向けて新たな活動が始まります。人生百年の時代、まだまだ元気に活動をしてまいりたいと思います。これからもご指導ご鞭撻をお願いいたします。

2. 地域活動の思い出

「竹馬・竹とんぼ・水鉄砲」

新取 守正

小江戸塾の活動の三本柱の一つである地域活動のうち、中央公民館の「まちで遊ぼう」を支援する活動に参加しています。「まちで遊ぼう」では、節分・お雛祭り・七夕・餅つきなどの四季折々の伝承行事や竹馬・折紙・凧あげなどの昔ながらの遊びをテーマとして、夫々のテーマごとに一緒に体験しながら子供たちに伝えて行くこととしています。

そのうちの竹馬・竹とんぼ・水鉄砲のご紹介をします。まず子供達に竹トンボを作ってもらいます。素材は竹ではなく、紙とストローです。出来上がったら公民館の中庭に出て、3つのグループに分かれ、竹馬・竹とんぼ・水鉄砲を順番に体験してもらい、それぞれの遊びを一巡したら終了です。開催が夏の時期なので、水鉄砲は水に濡れるのもいとわずあてに夢中になるので、支援の女性陣もひと苦労です。竹トンボは飛ばし方の要領が分かると、遠くに飛ばそうとみんな夢中になっています。

子供たちにとって竹馬が一番の難敵です。高学年になると経験者もいて、少し慣れるとそれなりに乗れる子が出てきます。低学年では竹にしがみついてしまいなかなか前に進めず、一人を誘導するのにもひと汗かくくらいです。自分一人ではなかなかうまく乗れなくても、竹馬に乗ることができてよかったと満足してくれる子供達が多く出てくれることを願いながら、今後も続けたいと思います。



竹馬はむずかしいね



竹とんぼの作り方はこうやって…

「竹馬・竹とんぼ・水鉄砲」 町で遊ぼう、子供たちと共に・・・。

金子 隆司

中央公民館の『町で遊ぼう』の体験活動は昔の遊びを子供たちと共にやる事を通して、昭和の文化を伝承し、次世代に受け継ぐ活動です。

この活動はどれも人気で、『竹馬・竹とんぼ・水鉄砲』は人数が多く、中でも竹馬は難しく、高齢な指導者たちは昔とった杵柄で上手に乗って見せるのですが、子供たちは苦戦します。でも、乗れるようになったとき、子供たちは大喜びで、それよりもさらに嬉しそうなのは指導者の皆さんです。

竹とんぼは滞空時間を競わせると何回でもチャレンジしてくれます。また、水鉄砲ではペットボトルの的を当てて倒します。初めは簡単に倒れますがボトルの底にビー玉を入れてやるとあたってなかなか倒れません。子供たちは協力して一斉に水鉄砲を打ちます。この団結力は素晴らしいものがあります。

このように、子供たちから元気をもたらるのが『町で遊ぼう』の活動です。



よいしょ！



ねらいを定めて



作った竹とんぼを飛ばしました

地域活動 「七夕まつり」

本田 幸子

七月七日の七夕の頃はいつも雨 !!

小さい頃は天の川に思いを馳せ夜空を仰いだ事を思い出します。どうか織姫と彦星が逢えますようにと。

小江戸塾に入り七夕の歴史や言い伝え等を学び、今まで知らないこともあったりして子供達に正しく教えてなかった事を恥ずかしく思いました。

毎年何気なく笹を飾り短冊を書いていましたが意味を知る事で気持ちがこもりますよね。里芋の葉は、神様から授かった天の水を受ける役目があると考えられ、その葉にたまった朝露を集めて墨をすり、その墨で七夕の短冊に願い事を書くと文字が上達し願いが叶うといわれています。五色の短冊（赤・青・黄・白・黒）にもそれぞれ意味があり、その他の飾りにもそれぞれの意味があります。また笹は冬の寒さに負けず育つ生命力があり、神聖な力があると考えられているそうです。今は里芋の葉も手に入りやすくなり、その葉で願い事を書くことは難しくなりましたね。

夏の訪れを感じる七夕の夜に、七夕飾りを短冊等で彩り夜空を見上げながら星に祈りを捧げたいですね。「新型コロナウイルス禍の生活が早く終わり平和になりますように」と。

それから、毎年七夕飾り用の笹を準備していただき、本当にありがとうございます。その方のご協力によりこの行事のすることができます。感謝しております。

“皆様の祈りが星に届きますように！”



支援者も楽しんでいます

地域活動 「七夕祭り」に参加して

山崎 敏江

子供達とのふれ合いを楽しもうと「七夕飾り」に参加しました。

提灯作りや短冊に願い事を書く手伝いの中で、子供達の発想の豊かさや手際の良さに驚くばかりです。また出来上がった笹飾りを手にうれしそうに帰る姿は、本当にほっとする瞬間です。

この時の為の準備は事前に「何が子供達にはふさわしいか?」「これなら出来るだろうか?」と支援者達と何度も集まり、和気あいあいと楽しい時間も共有してきました。これは自分にとってもリフレッシュ出来るひとときでした。

これからも出来る限り続けていきたいと思えます。



『七夕祭りを楽しもう』に参加して

佐藤 裕子

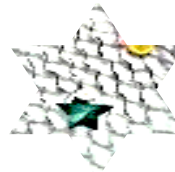
コロナ禍の前に、中央公民館の『町で遊ぼう伝承遊び 七夕祭りを楽しもう』に参加いたしました。息子たちが、小学生の時以来ですので、34～5年ぶりの七夕祭りでした。

本番前、入念に何度も準備することに、一つの催しをするためには、見えないところでの企画や準備が、いかに大切かということを知った次第です。

本番当日は、一年生～四年生の12人の小学生が集まりました。私は、七夕の由来をお話しすることの担当になり、大分緊張したことを覚えております。

子供たちは、皆さん一生懸命で、目をキラキラ輝かしながら七夕飾り作りに取り組んでいました。笹に、作った飾りをつける時、何処に何を付けようかと真剣に悩んでいる姿が、とても可愛く頼もしくも思いました。毎回、リピーターの参加者が多いと伺いましたが、こんなに楽しければ毎回参加したくなるはずだと納得いたしました。

またこの様に楽しい催しをたくさんの子供達と、何の憂い無く開催できる日が、一日も早く来ることを切に願っております。



「七夕祭り」の伝承

新取 はるみ

小江戸塾では中央公民館主催の伝承行事の支援活動をしていますが、その一つに七夕祭りがあります。内容は、はじめに子供達に七夕祭りの由来や伝説を紙芝居で説明します。次に、折り紙で彦星や織姫などを折り、願い事を短冊に書き込んで、一人一人に用意した笹に飾り付けをします。最後に皆で七夕祭りの歌を歌って楽しみます。

子供達の熱心に取り組む姿や楽しそうにしている姿を見ると、支援している私も嬉しく又遣り甲斐を感じます。現在は、昔から伝えられて来た行事がおろそかにされているような気がします。小さい時に経験した事は大人になっても忘れないものです。今後も四季折々の行事を企画し、多くの子供達に伝え続けていくことを願っています。そのために伝承行事の支援活動に、私でもできる限り協力しようと思っています。

「ペットボトルロケットを作って飛ばそう」活動の歩み

1期生 本田 清

公民館活動で、一番最初にペットボトルロケットを飛ばしたのは、平成23年に大東南公民館で小江戸塾の鎌田保さんが技術披露をしたのが始まりで、以来12年にわたり、中央公民館と伊勢原公民館の二か所で、小江戸塾が全面支援行事として、毎年の夏休みの行事として子供たちの人気を集めております。

募集人員30名は、公民館が行い、ペットボトルロケット イコール玩具のイメージが強いのか、小学1年生～3年生位までが大半で、2本のペットボトルを、普段使い慣れないナイフで工作する際には、支援者は常に安全には一番神経を使っております。

約一時間の工作で、各自が思い思いの図柄に仕上げた、自分のロケットを持って校庭へ移動。

校庭では、大勢の支援者が発射台の準備担当、飛距離測定ロープ担当、安全区域ロープの敷設等を終わらせ待っております。

発射に伴う注意事項を聞いて、順番に、自分のロケットを発射台に取り付け、支援者が自転車用空気入れポンプで圧力を入れて、発射準備完了。

この行事の一番良いところは、自分の手で、3, 2, 1の合図で発射ボタンを押してロケットを飛ばす事です、水を吹き出しながら40メートル位も飛んでゆくと、一斉に感嘆の声があがります。

発射台を変えて、2回発射を行い、部屋に戻って、記録担当から飛距離の発表。一番に飛ばした子供から順番に発表され、それぞれ皆に祝福された時の嬉しそうな顔は忘れられません。

夏休み行事のため、真夏の暑い炎天下で、支援者は日陰も無く汗だくになってお手伝いを行っておりますが、これも子供達の喜ぶ顔見たさで、熱中症に注意しながらこれからも定着化を図っていきます。



ロケット製作中



発射！

コロナ禍での「ペットボトルロケット」と子供の笑顔

小栗 利雄

3階と庭、上からも下からも発射前のカウントダウンの大合唱、発射されるとひときわ歓喜の声が庭に響き渡った。どの子も満面の笑みです。

緊急事態宣言という異常が、日常になっていた中ですが、8月5日に宣言の解除があり地域活動の「ペットボトルロケット」の実施でした。

いつもは、公民館3階軽体育室でロケットを作成後、一斉に近くの小学校校庭に移動しロケットの打ち上げを行っていましたが、当日は、手の消毒やマスクの着用等基本的な対応、さらに慎重を期してコロナ・炎天下対策として、小学校の校庭に移動することなく、人数を分散しての少人数での公民館庭での打ち上げでした。残りの子供は3階で待機です。

狭い庭での少人数の打ち上げでしたが、コロナ禍で学校行事の中止、遊ぶ機会の減少等、子供の活動に制約を課せられてストレス、そんなことから解放されうっぷんを晴らすかの

ように笑顔がはじけました。3階で静かに待機するはずの子供も大声での声援です。地域活動が子供の笑顔を呼んだのです。

地域活動、公民館事業等を通して行政との協働実施。行政が出来ない部分を小江戸塾が主体的に担っての地域貢献です。先輩たちが培ってきた地域貢献、私たちがたくさんの子供たちの笑顔を作りたいものです。



工作風景



教室全景



ペットボトルロケット発射の様子

中央公民館 「まちで遊ぼう」

伝承行事“餅つきを楽しもう”

田中 喜久雄

伝承行事“餅つきを楽しもう”は児童に餅つきを体験させて、ついた餅を食べてもらうものです。餅つきは“まちで遊ぼう”の行事の中では、小学生に最も人気があり、参加応募児童数が多く毎年抽選となります。

この2年間は新型コロナ感染状況下であり、児童も外出・外遊びの機会が少ないためか、2020年に73名、2021年には60名の応募がありました。それ故、児童定員は30名を抽選とし、参加児童30名は感染対策の徹底ために半分の2グループに分けて実施しました。

“餅つき”は餅つきの紙芝居を見て、伝承行事の餅つきの由来を知ってもらいます。毎年餅つきは4～5臼（もち米6～7kg）をつき、その中で各児童に餅つきを支援者の補助のもとで体験してもらいます。つきあがった餅は、餡子餅、きなこ餅、醤油餅にして、食べたり、持ち帰ってもらいます。

近年の傾向として、餡子餅を嫌いな子が増えていること及び参加希望児童のうち低学年の割合が増えていることです。

この低学年児童の割合増加及び支援者の高齢化・固定化は餅つき体験の補助での支援者の負担が大きくなっております。

ぜひ会員の方には餅つきに参加戴き、児童と伝承行事“餅つき”を楽しもうではありませんか！！



餅つき由来の紙芝居



餅つきの体験



つきたての餅を食べる

「餅つき大会」

鈴木 二郎

小江戸塾の地域活動の中で、公民館での体験事業として日本の文化(伝承行事)を子供たちに伝える取り組みを毎年年末に行っています。最初に餅をつく前に餅つきの意味について説明をし、もち米と普段食べている米の違いを食べて体験してもらいます。そして小江戸塾の支援者と子供たち全員で(よいしょよいしょ)というかけ声で餅つき体験をしてもらい、自分たちでついた餅をあんこ・きな粉などで食べてもらうという行事です。私たち小江戸塾の仲間も昔ながらの臼と杵うす きねで餅をつくことはめったにないので、みんなで楽しんでもらっています。この体験が子供たちの心の隅に思い出として刻んでもらえればよいと思います。



カルタ取り



みんなでお餅をまるめます

「餅つき」

宮崎 清子

ここ数年、私たちの生活や行動を大きく変様させてきた新型コロナウイルス感染症も数回にわたり大きな波がきましたが、昨秋よりようやく沈静化の兆しが見られ、中止あるいは休止となってきた私たちの活動も徐々に再開されてまいりました。

そうした状況の中、私たち「小江戸塾」においても、コロナ禍で休止していた「餅つき」を昨年12月11日（土）に中央公民館において、子供たち30人及び支援者18人の合計48人参加のもと再開いたしました。前日から支援者の方が「餅つき」のために臼や杵を用意するとともにもち米を一晩水に浸して準備してきました。参加した子供たちにも餅をついてもらったり、大人の方には「合の手」を経験してもらったり楽しく過ごしました。さらに、子供達には「餅つき」や今回はコロナ禍の為作らなかった「鏡餅」とそれに伴う無病息災を願っての「鏡開き」について、紙芝居を使ってわかり易く説明しました。

こうした日本古来からの生活習慣に馴染んで来た行事を子供たちが理解し、次代へと引き継いで行けるよう、この小江戸塾の餅つき行事がその一助になればと思っています。

餅つき

平成 29 年度ふるさと塾卒 袴田 敬子

「小江戸塾」 20 周年おめでとうございます。

地域活動の中央公民館伝承行事の支援で、餅つき行事に参加させていただきました。

もち米は前夜から研いで水に浸けて準備し、当日は希望者多数だったため抽選で参加が決まった子どもたちが、蒸しあがったもち米を昔ながらの杵と臼でペタンペタン順番についていきます。

実習室では調理担当がつき上がった熱々の餅を一口大にちぎり、醤油・あんこ・きな粉と合わせて出来上がりです。最近の子どもたちには、あんこ餅よりも醤油餅のほうが人気がありました。

子どもたちの餅つき体験での楽しそうな笑顔が、小江戸塾会員の皆さんの次回支援活動への原動力になっているようでした。



杵を持って、こうつくよ



でき上がったお餅をいただきます

地域活動 伝承遊び「折り紙・お手玉」

本田 幸子

小江戸塾の知人に子供達に折り紙を教えるのを手伝って・・・と誘われてかれこれ七・八年が過ぎてしまいました。お手伝いだけのつもりで参加したのが、いつのまにか折り紙の本を探しに図書館に通ったり折り紙会館に行ったり、動画を見て次の作品を探したりとすっかり折り紙の世界にはまってしまいました。

活動としてはお手玉・伝承折り紙（遊べる折り紙作り）や七夕飾り・お雛様作りです。また他に公民館の文化祭に参加して、会場に来た子供達と折り紙を折り支援者で会場を飾る作品を作ります。

今は新型コロナウイルス禍で思うように活動ができませんが、子供達と一緒に折り紙を折っていると楽しそうに作っている子や不安そうに折っている子等いろいろです。でも最後に”楽しかった””自分で折れて嬉しかった”と笑顔で話してくれる姿を見ると、私達支援者は心がいやされ温かくやさしい気持ちにさせられました。

先日テレビでの外国の男性の方の話で、小さい頃に母親が折ってくれた折り紙に感動したので今は子供達に折り紙を教えているそうです。その姿を見て日本の折り紙の誇りと素晴らしさを感じました。

また私達の固くなった頭には、想像力を高め手先を動かす折り紙がこれからも頭の体操に役に立つのではと感じています。

折り紙の活動を通しての出会いが新しい自分作りになれるのでは・・・是非皆様のご参加をお待ちしております。

”御一緒に折り紙を楽しみませんか！！”

中央公民館祭り

支援者の作品

子供達が“ときも”にピースを入れて完成



まちで遊ぼう・伝承遊び「凧あげ」

新取 守正

地域活動である中央公民館の「まちで遊ぼう」シリーズを支援する活動に参加していますが、そのうちの「凧を作って凧あげをしよう」についてご紹介します。

「まちで遊ぼう」では各テーマとも実施日の一週間前に支援者打合せ会を行いますが、「凧あげ」では更にその一週間前に、支援者講習会を開きます。凧作りの資材の準備を兼ねて、支援者が実地に凧を作りながら子供たちを指導する要点を確認するためです。

今年はコロナ対策のため、例年より人数を絞っての開催となりましたが、「お姉ちゃんが何年前に参加したので私も来ました」という四年生の女子や、「僕は一年生の時から毎年参加しているよ」という四年生の男子が来ていて、この活動が子供達に認知されているのだなと嬉しく、また心強くも思いました。低学年の子供達では、切ったり、貼ったり、糸を結んだりで苦戦することが多く支援者が手助けする場面もあるが、高学年になると各作業を何とかこなして仕上げられるようになってくる。出来上がった凧を持って川越一小的の校庭に行き、皆で凧あげをする。自分が作った凧があがっているのを確認すると更に校庭を一所懸命に走り、疲れたと言いつつも満足げな顔をしている子供達を見ると、支援した側としてもホッとするとともに、今後も続けていくことが大切だなと思う瞬間です。



凧の作り方を真剣に聞きます



凧、凧上がれ！

中央公民館支援事業「凧あげ」に参加して

中島 義則

これまで仕事の関係上、小江戸塾活動の中でも中央公民館支援事業については、お手伝いする機会が少なく心苦しい思いでいっぱいでした。たまたま「凧あげ」の実施日が休みと重なり、久しぶりに支援事業に参加することになりました。「凧あげ」は、子供の頃の体験が殆どなく、この機会に自分も楽しんでみたいとの思いから、参加者の小学生たちと一緒に凧づくりに張り切りました。当日は、小江戸塾の担当者が作成図面や用具を事前に用意して、凧の作り方や作業での注意事項の説明がなされ、少人数のグループに分かれた子供たちと会話を交えながら凧づくりを支援しました。個性が一人ひとり違う子供たちが無心に凧づくりに取り組んでいる姿を見て、なんとも言えない微笑まじさを感じました。また凧が完成して、近くの小学校の校庭で思い切りそれぞれの凧を揚げて空を舞っている光景に、童心に帰った気持ちになりました。

子供たちの、はしゃいでいる姿は、本当に平和でいいですね。



ここが凧作りの要です



凧を上げるときのポイントは？



うまく風に乗りました！

「節分会」の思い出

小江戸塾 宮崎 大

時の経つのは早いものと最近つくづく感じるのですが、小江戸塾に入って数年後、先輩からのお誘いで「節分会」の集りに参加したのが平成20年（2008年）の1月で、平成30年までの11回、お付き合いさせて頂きました。

冬の季節の終わる伝承行事で私の田舎でも、毎年各家庭で行われていたものですが、それを現代の子供達と共に楽しむことに喜びを感じて居たものです。

- ・支援者は10日程前に会場の中央公民館に集い、事前打合せ会を開き、協議して用意するものや役割分担を決める。
- ・当日は9時前に集合し、和室に卓を並べ、入り口の飾り付け（柵やイワシ…）
- ・子供達を班別に確認、公民館側の挨拶、進行説明と支援者全員の挨拶
- ・節分に関する紙芝居、風習、歌、支援者の出身地や体験談等で参加者の心をほぐす。
- ・参加者全員が「鬼の面」作り
- ・数回に分けて「豆まき」の実施
- ・部屋の片付けの後、参加児童の感想発表、次回参加の呼びかけ、散会
- ・支援者の感想会



節分の話



お面作り



元気よく、「鬼は外、福は内！」



こんなお面ができました

節分会

田島 邦子

節分の由来を紙芝居「節分だ豆まきだ」から始まり、風習を語り、「豆まきの歌」を輪唱、鬼の面作りの始まりです。思い思いに絵付けをし、完成した面を付け、豆まきの始まりです。

支援者の鬼役に大声で、「鬼は外、福は内」。次は子供の鬼役です。皆笑顔で楽しく過ごしています。私達は安全第一で終了します。

私の節分の思い出は、夕方になると軒下で祖母達がコンロの上で豆を炒り、「めざしを菜葉の虫もゴロゴロ鬼の首と取りかえろ」と唱えながら焼き、頭と柵を戸口に飾っていました。夜になると、あっちでも、こっちでも、豆まきの大きな声が聞えたものでした。五穀豊穰家内安全を願っていたのでしょね。

時代も住環境も考え方も多様化している日々この頃、伝承行事も忘れさられていますが、節分会を通して少しでも日本の文化、心、四季を感じてもらえたらうれしく思います。私達の活動の源は子供達の笑顔が原動力です。超高齢化時代を健康で楽しく仲間と共に協力してまいります。新人さん大歓迎です。

多方面で活躍している先輩の労に感謝申し上げます。

「節分会を楽しもう、責任者として」

竹本 重人

2015年に平成27年度シニアカレッジ「ふるさと塾」に入塾し翌年2016年（平成28年）1月に所定講座を修了後、川越シニア大学小江戸塾の理事として1年間「事務局と地域活動」を受け持たせていただきました。

中央公民館での伝承行事「節分会を楽しもう」は、①聞く（風習の話し）、②見る（紙芝居）、③作る（鬼の面作り）、④動く（豆まき）の要素があり、男女児、年齢差があっても（少学1年生～4年生）一緒になって遊べます。自分が子供の頃、年上の子・年下の子と一緒に○○ごっこ・○○遊びに夢中になった一時を子供たちから感じました。

2019年に地域活動担当理事からベテラン宮崎さんの後任として節分会担当責任者の依頼があり、自分には無理と感じていましたが田島さんはじめ支援者の皆さんに助けられて活動しています。支援者さんからは毎回提案が出され（紙芝居の際、ウグイスの声を・豆まき歌を歌ったら・豆を持ち帰らせたら・鬼に金棒（ビニール）持たせたら等々）前回よりも良くしようとの気持ちが顕れる有難いメンバーです。

コロナ前の子供たちの感想ですが、「鬼を退治出来ストレス解消になった。」、「鬼になれて良かった。」、「鬼の面が上手に出来た。」、「豆まきが出来て良かった。」、「前回も参加して楽しかった。」、「豆が美味しかった。」等々、子供たちが夢中で楽しんで出てくる言葉や笑顔で、我々も楽しめる「節分会を楽しもう」です。

地域活動 「折り紙でおひな様を作ろう」

古山 廣子

私達は子供の頃、学校の休み時間等に友達と折り紙でいろいろなものを作って遊びました。私は今、子供達と一緒に折り紙でいろいろな作品を作って楽しんでいます。そのひとつがおひな様です。

当日はなぜおひな様の行事をするようになったかを知ってもらい、折り紙でおひな様を折って歌を歌って楽しい時間をすごします。

おひな様は地方によって段飾り・つるし雛・立ち雛等いろいろあります。作品はそれらを参考にし、本を見て試しに作ってみて支援者で相談しあい、中高学年生が喜べるそして低学年生でも作ることができるおひな様をと計画しています。

今はゲームで遊ぶことが多い子供達ですがその日はおひな様を作るのを楽しんでいるみたいでした。きれいな模様の紙を折ったり切ったり貼ったり、器用に早くできる子供もいればなかなか思うようにできずに格闘している子供もいます。でも作業ごとに全員一緒に折り進むので終わりは一緒です。

感想を聞くと「毎年違ったおひな様を作るので楽しい」、「楽しく作れて良かった」、「きれいにできて良かった」等の声をきいて支援者も嬉しくなります。家に帰っておひな様を飾って、作っているときのこと等思い出しておうちの人と話していることと思います。伝統の行事が少しでも子供達の心に残れば支援者としてはやりがいがあります。



「折り紙でお雛様を作ろう」に参加して

永堀 由美子

上の子が家から巣立ってから、もう20年になる。古いアルバムの中で雛祭りは「我が家の青春時代」そのものだったように思う。キラキラした参加児童達を見ていると、まるでタイムスリップしたみたいだ。

折り紙担当の幹事さんによる毎年の「雛人形の型」や「衣装の絵柄や組み合わせ」には、彼女らの美的感覚の高さに感心している、さすがである。先輩たちが築いてくれた土台があってこそ、私のささやかな折り紙体験が出来ているのがよくわかる。

子供達の中には、説明者に集中してすぐに理解できる子、素早く正確に折る子、自分のこだわりが強く遅くなる子もいるが、それも個性で悪くはないと思う。上手に伸ばして輝いてほしい。ここで作ったお雛様が、きょうの話題の一つになり、家族のだんらんへと続くことを、いつも願っている。

上手にできたでしょ



「折り紙でおひな様を作ろう」を支援して

東 ミドリ

小江戸塾 20 周年記念を迎えおめでとうございます。

地域活動の『伝承遊び 折り紙』に携わって4年余りになります。小学校の子供たちと折り紙でお雛様を作成しました。折り紙を始める前にお雛様の由来などを聞き、子供たちの傍らで支援者も改めて聞く内容があり『エ〜！そうだったんだ』と声もれたりしていました。

折り紙作業に入り、支援者の応援により色とりどりの折り紙で個性あふれたお雛様やお内裏雛・小道具などが次々と出来上がり、子供たちは大喜びでした。最後は子供たちと支援者が『うれしいひな祭り』の歌を大きな声で歌い楽しい一日が終わりました。

私たち支援者は子供たちに出会い、支援者の話やサポートに真剣に耳を傾ける一生懸命の子供たちの姿に微笑ましくもありまた頼もしくもありました。そんな子供たちを見ていると伝統行事の折り紙をもっと地域の中に広げたいと思います。

また、支援者の皆さんと楽しく会話をしたり、コミュニケーションができる小江戸塾の会員であることをうれしく思っています。

今後益々、小江戸塾が発展することを祈念します。

小畔川自然探検隊

永堀 均

小畔川は川越の西部地区にあり、飯能市の宮沢湖に源を発し、越辺川までの16Kmである。当探検隊は主に伊勢原公民館の主催で、川越市内の小学生3～6年生約30名を市の広報紙を通じて募集し、毎年6～7回の行事を行っている。始めの頃は16校におよんだが、最近では公民館付近の小学校のみへの募集なので5～6校である。

小江戸塾のボランティア活動では公民館と行事の内容、日程について打ち合わせをし、小畔川を通じて川や水の役割を遊びながら学ばせることと、子供たちが安全で楽しく遊べるよう見守ることです。

実施内容は、①保護者説明会、②探検隊を作ろう、③上流探検では宮沢湖の取水口を電車とバスを使って見学、また電車、バスの乗車法、マナーなどを学ぶ、④中流探検は川での魚の種類や取り方、遊び方、⑤下流探検はザリガニ釣り、昆虫、蝶々狩り、⑥施設見学は水に関連した場所などの見学（首都圏外郭放水路、浦山ダム）、⑦ウインターワールドは楽しい行事で、クリスマスツリーや正月のリースを作った。最近ではさつま芋の栽培と収穫で大学芋や芋ご飯を食して楽しんでいる。また宮沢湖がムーミンテーマパーク工事の為に遊び場所が取れないのでハイキングでの巾着田にコースを変えた。ウインターワールドは小江戸塾会員のおかげで近くの農地が借用でき、さつま芋の行事が出来た。夏の暑い中、ボランティアのお陰で数回にわたる除草作業が出来、良い芋が沢山取れた。

孫の世代になる子供達と一緒に遊んでいると、思いもよらない考えと新しい出来事を経験し、毎年元気と充実した一年を過ごさせてもらっています。



小畔川自然探検隊



ザリガニ釣れるかな

小畔川自然探検隊この10年の思い出

水田 勇

小畔川自然探検隊の事業は、文部大臣の通達をうけて川越市が応募し公民館の一部が協力して始められていたものに、小江戸塾同窓会が発足し活動を始めるきっかけとして、開校当時の小江戸塾の講師をされていた市職員の小野寺氏の紹介で協力を始めたものです。

当初は小畔川の西地区の数館の公民館の共催で行われていましたが、その後伊勢原公民館中心に事業が展開されてきました。

小江戸塾第二期の2012年から2021年までの十年間のうち、最後の二年間（2020年と2021年）が御承知の新型コロナウイルスのまん延で残念ながら公民館の活動を中止せざるを得ませんでした。

この十年間で新しくカリキュラムに取り入れたのが、サツマイモの植え付けと収穫、料理と試食、下流探検ではザリガニ釣りでした。

サツマイモの畑は川越市議の小野澤氏の口利きでJR川越線の的場駅近辺の畑を世話して頂きました。2015年から2019年まで5回、事前の草取り、畝作り、真夏の数回に渡る草取りなど講座以外の手間がかかるものでした。収穫の日は弁当は無しで、小江戸塾の女性の方々の協力を得て、炊き込みご飯や大学芋等々を作って頂きました。子供達が帰るときには持ち切れないほどの芋がくばられました。

下流探検ではザリガニ釣りを2014年から始め、子供たちのうれしい日となりましたが、外来種で稲の根を荒らすなど駆除されたり水路をコンクリートで作られるなど年々生息数が減少し、今後の継続が難しくなると思われます。

年一回のバスでの施設見学で秩父の裏山ダムに行った時のことです。エレベーターで150メートル程の地下へ下り施設を見学した後、再度エレベーターで戻る予定を私の独断で外階段を使って登れと子供達に号令をかけました。子供達は喜び勇んで階段を駆け上りましたが、大人達はやっとのことで登ったのはいい思い出です。



みんなでも掘り



早く食べたいな

小畔川自然探検隊の活動の歩み

1 期生 本田 清

小畔川自然探検隊の活動は、伊勢原公民館主催、小江戸塾支援行事として、平成15年から始まり、足かけ20年目に入る目玉行事の一つです。

大きな特徴は、一回限りの行事では無く、6月の募集から12月まで年6回のシリーズで、小学3年生から6年生までの隊員30名を5班に分け、班毎に2～3名の支援者を固定して、野外活動での昼食も常に一緒に輪の中に入り、行動を共にしています。

5月頃に公民館と調整し、支援者に集まってもらい、年間の実施日に参加できる日をあらかじめ登録してもらい、その中から年6回の企画担当責任者を決めて、当日の行事を受け持ってもらいます。

募集は公民館が行い、隊員は伊勢原公民館の近辺の小学校から応募してきますが、常に7校～8校からの応募があるので、知らない顔同士の班づくりには、いつも企画担当責任者は頭を痛めています。

小畔川の源流調べの宮沢湖までは、電車とバスを利用しますが、小銭を用意させ、切符は自分で自動券売機で子供用を購入する等、社会体験も経験させております。

行事の一つとして、川越市からバスの無料提供がありますので、今までに長瀬の自然博物館、羽生のさいたま水族館、春日部の龍Q館（通称地下神殿）等遠出も行っており、隊員を楽しませております。

又、食べる楽しみとして、7年ほど前からの的場近辺の畑を借り、6月の第一回目にサツマイモの苗を一人三本ずつ植えて、11月に芋ほり体験を行い約200kgの収穫で、一人4本を持ち帰り、喜ばれております

小畔川での手作りの筏下りや、^{うけ} 釜を作り、食事前に仕掛けて、午後は、ずぶ濡れになりながら、^{うけ} 釜を引き上げる時の隊員たちの嬉しそうな声を聴きながら支援者は満足感を味わっております。



釜を仕掛ける



筏乗り

小畔川自然探検隊「宮沢湖を探検しよう」

菅野 仲夫

10月には JR 川越線の的場駅に集合し、乗車券を購入することから探検のスタートです。高麗川駅まで乗車し、宮沢湖を目指します。一般道路から横道に入り、なだらかな山道を観察しながら歩くと、4km弱で宮沢湖の堤に到着です。早速小畔川の源流となる湖からの突出口を見学します。まだ流水は少なく下流の水量の始まりとは想像出来ません。湖畔に上がり昼食小休止、堤から林道を自然観察しながら歩き、湖を半周しバス停に出ます。帰りはバスで JR 川越線武蔵高萩駅まで乗り、的場駅に戻り解散します。

宮沢湖周辺の再開発事業が始まってからは、的場駅から武蔵高萩駅で下車、バスで宮沢湖に移動。巾着田までの自然観察に変更しました。巾着田で昼食小休止、また道中観察しながら高麗駅まで歩きます。高麗駅から的場駅まで乗車、解散です。今はコロナ感染症の影響で行事は中止しています。



電車に乗って宮沢湖へ



小畔川源流探検（宮沢湖突出口）



みんな一緒に昼食



参加者集合写真

小畔川自然探検隊「宮沢湖周辺を探検しよう」のルート変更

米田 外志男

宮沢湖周辺にムーミンハウスの建設が計画され周囲が立入禁止となり、これまでのコースが取れなくなりました（高麗川駅から宮沢湖へ徒歩でいき湖畔で食事をするコース）。

小畔川の源流口が見られるか、食事をどこでするか等の問題が出て来ました。そこで食事を巾着田で出来ないか検討することにし、永堀均さんと事前調査を行いました。源流口まで行けるか、そこから巾着田へどのように行くか。

源流口は立入禁止区域ではありませんでした。巾着田へは宮沢湖隣のゴルフ場脇の林の中の小道を 30 分ほど歩けば巾着田への道に出ることが出来、宮沢湖から巾着田まで 1 時間ほどで行けることが分かりました。

これまでのように高麗川駅から歩くのは距離が長すぎるので、行きは武蔵高萩駅からバスで宮沢湖まで行き、帰りは巾着田から西武池袋線の高麗駅へ行き東飯能駅で J R に乗り換えて的場駅に戻ることにしました。

ルートは決まりましたが、9 月下旬は巾着田では曼殊沙華まつりの時は、子供はタダですが、大人は 500 円なので、この費用を参加者の負担とするか等の問題もありましたが時期をずらすことで解消しました。



グループ旗のもと、元気に探検中



ちょっと一息、休憩中



宮沢湖

小畔川自然探検隊“施設見学”の振り返り

田中 喜久雄

小畔川自然探検隊では、総仕上げの行事として埼玉県内の川に関する施設にどんなものがあるかを知ってもらうために、県の公立施設を県民の日に、市の手配バスで見学を行っております。

近年に訪問した施設は、春日部市にある首都圏外郭放水路（TVで地下神殿と紹介されます）、寄居町にある川の博物館、秩父市にある浦山ダム、戸田市にある荒川水循環センター・彩湖野外自然学習センター、加須市にある県環境国際研究センター、羽生市にある埼玉水族館です。

埼玉県は海なし県ですが、川の数では日本で有数の県ですので、川関連の施設を見学することは有益なことであり、児童たちは施設を見学して、驚くと共に、生き生きとした目で展示物を見ていたことが大変印象に残っています。

この2年間、新型コロナ感染状況の拡大の影響で行事は中止なっております。新型コロナ感染状況及び市の行政状況も先行きも不透明であるので、今後も実施できるかが心配な点です。



首都圏外郭放水路（龍Q館）



川の博物館



浦山ダム

子供たちとの触れ合い (ペットボトルロケットに参加して)

林 和博

小生は小江戸塾にお世話になった当初から「ペットボトルロケットを作ろう」の行事に参加させていただいている。先輩諸氏から、工作の仕方、子供たちへの安全な配慮の仕方、ロケットが飛ぶ原理の易しい教え方等を学び、自身も子供たちと一緒に工作・試射を楽しんでいる。

最近、参加児童が低学年化しているようだ。高学年は塾や、クラブ活動、ゲームで忙しいのかもしれない。また、兄弟で参加する子も多い。室内での工作では初めてカッターを使うような子が多いのでけがをしないか緊張するし、炎天のグラウンドでは熱中症への対応も重要だ。

数年前、第一小学校校庭での試射では5.5mの距離を稼いだ5年生の女の子がいた。後でロケットを見せてもらおうと、正確丁寧に工作をされていて、なるほどと思った。去年は兄弟で参加した1年生が1等賞になり、うれしそうな顔をして、まずお兄ちゃんの方を見た。お兄ちゃんは一瞬悔しそうではあったが、弟をまぶしげ頼もし気に見ていたのが印象的であった。

少子化の影響で小学生の数も少ない。まして孫がいない小生にとって、この活動を通しての子供たちとの触れ合いは大切だ。これからも元気な限り参加したいと思うこの頃である。



ペットボトルでロケットを作ります



「発射準備！」



「とても遠くへ飛びました」

伊勢原ペットボトルロケット

恵 敏雄

こどもたちと一緒にペットボトルロケットを作って飛ばすのはとても楽しいことです。始めの工作では、ナイフやハサミ、テープを使ってロケットを作る小さな手を見守りつつ、「ここはこうしたらいいよ。」などと言って教えながら作りました。出来上がったときのうれしそうな笑顔はなんとも言えません。

次に、完成したロケットを小学校の校庭で飛ばします。私たちがロケットにポンプで加圧している間も、子供たちは自分の番を、身を乗り出して待っています。発射スイッチで自分のロケットを飛ばすと、本人だけでなく周りのみんなもワァーと声を上げてロケットの飛んで行く方向を見つめています。飛んで行ったロケットを自分で取りに行き戻ってくるときの表情は様々です。

最後に、飛距離による表彰式。ロケットがうまく飛んで嬉しそうな子、ちょっと残念だった子と、悲喜こもごもです。支援する私たちは汗をかきながらも、子供たちと一緒に楽しい時間を過ごすことが出来ました。



ロケット飛行中



ロケット発射！

伊勢原 餅つき大会

上村 春江

伊勢原公民館での12月のイベント「餅つき大会」。小江戸塾の会員が腕を奮う行事の一つです。小学生対象で公民館の調理室で開催。

子ども達の集合に合わせて、もち米を蒸します。蒸したもち米→臼に移す→杵でつく。簡単そうですが、子どもや支援者（ちょっと高齢？）には、大変な作業に見受けられますが・・・それがまたとても良い光景。皆さん気合いが入って楽しんでます。

最近では、臼と杵で餅つきの体験は貴重。ワイワイ・ガヤガヤ賑やかさも超一流!! つきたての餅で、子ども達が小さな手で持ち帰りの可愛い「鏡餅」を作り、からみ餅・あんころ餅等々の試食会。自分達でついた餅を、美味しい!! 美味しい!! と大喜び。支援者の疲れもぶっ飛びます。

1年の締めくくりには、絶好の行事だと思います。2020年と2021年は、コロナ騒動で中止。2022年は開催出来ることを祈るのみです。



準備にも熱が入ります



鏡餅を作るよ



早くやらせて!

「仙波小学校4年生 新河岸川探検」と支援事業

金子 隆司

ゆとり教育の目玉である総合的な学習の時間の地域協力活動として始まったこの支援事業は地域の子供たちを支える活動の一つで、こどもサポート教室の一つになっている。

小学校4年生の社会科では埼玉県について学習し、副読本には『川越は地域の歴史的町並みを生かした町づくりを行っている。』と書かれている。このことから新河岸川の歴史を子供たちが学習し、当日は新河岸川の起点近く(月吉陸橋)から氷川神社まで川探検を行う。後日、実際に歩いてみてわかったことをまとめて発表する。

事前学習から発表会まで子供たちと一緒に過ごす時間はかけがえのないもので、なかには「赤間川の名前の由来は?」「むかしの川はどんなだったのか?」「新河岸川は何処から始まり何処まで行っているのか?」等、教えるつもりが子どもたちの柔軟な考えに、こちらが教えられることも多々ありました。



出発前(仙波小学校)

発表会の後で、子どもたちからお礼の手紙をもらった時は感激で胸がいっぱいになりました。先日(2021/11/9)に亡くなられた瀬戸内寂聴さんの大切にしていた天台宗・最澄の言葉『忘己利他』(己を忘れ他を利する。)
「人を幸せにすることこそ最も高尚。」こんな気持ちにさせられた支援事業でした。



川探検



発表会

仙波小学校支援 4年生総合学習“新河岸川探検”

田中 喜久雄

仙波小学校4年生総合学習“新河岸川探検”の支援は2002年に小江戸塾の発足と同時に始まったと伝え聞いております。その支援内容は、会員が4年生に新河岸川の歴史・自然・環境について興味を持たせる説明会、4年生が決めた新河岸川でのテーマ別の班毎に調査・観察のサポート及び引率する現地学習と児童たちが班毎に纏めた成果発表会の聴講です。ちなみに、新河岸川探検は月吉陸橋下から氷川神社まで新河岸川に沿って行います。

私は3回ほど支援者として参加しましたが、テーマは歴史コース、生き物コース及び環境コースですが、生き物コースを選ぶ児童が70%以上になっています。やはり、子供の関心は生き物にある事がわかります（私の小学生の頃と同じと痛感した次第です）。

児童たちは現地観察になると、生き生きとした表情を見せたことが印象に残りました。特に、魚捕獲担当の児童の中には夢中になって魚を追い回し、ズボンがびしょ濡れになった子もいたことなどがいい思い出です。

成果発表会では班毎に研究成果をまとめて、発表する項目を分担し、全員で元気よく、はっきりと説明していたことが印象に残っています。また、発表会終了後に、班の支援者毎に写真同封の上、御礼状が届きました。私はその時の御礼状を今もファイルしております。

この2年間は新型コロナ感染状況が拡大のために、仙波小学校より小江戸塾に支援の依頼がないので支援の実施をしておりません。又本年もコロナ感染状況が先行き不透明なため、支援できるか否かが気がかりな点です。



川の生き物観察



川の向こうはどうなっているの？

小さな自然とのふれあい …新河岸川自然探検隊 …

伊藤 敏介

川越駅から一駅の川越市駅から 15 分ほど、月吉陸橋の石段を下りると、そこはもう川越の貴重な自然が残っている新河岸川。仙波小学校 4 年生の特別授業の「生き物グループ」のお手伝いをして 5 年ほどになる。月吉陸橋下から新河岸川に沿って氷川神社までの行程を、1 グループ生徒 5～7 人に分かれ、それぞれに会員 1～2 名が付き添って歩く。浅瀬で水に触れる子、石踏を飛んで渡る子…生徒めいめいの視点で自然に向き合い、「テーマ」も忘れて？楽しそうに自然に触れる時間を過ごす。そこには我々が幼い頃ふんだんに味わった姿が投影されて懐かしく、ほほえましくも感じる。

川越にはまだまだ自然が残っている。実施時期が 9 月という草花の乏しい季節に当たるものの、子供たちは目を輝かせ、それなりの新発見・新体験を見つけてくれる。

後日のグループ発表会に招待され、その成果を聞くのも楽しみである。それぞれのグループで十分に話し合い頑張ったことが強く伝わってきて、ハッとさせられる発見もあり楽しい。

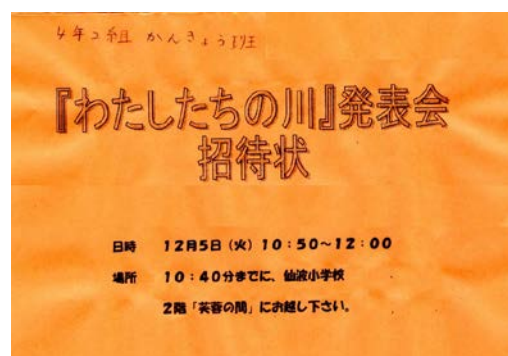
この体験がそれぞれの糧となり、川越への愛着と自然に接することの大切さが、子供たちを通じてこれからもずっとつながっていつてくれることを期待している。



新河岸川探検中



体育館での発表会



発表会への招待状

小江戸塾一期生の減少寂しくもあり

一期生 阿部 恒男

平成12年11月当時の船橋市長を学長として、体験を通して「考える・行動する」を大切とした学習会に参加、終了と同時に実践すべく小江戸塾の創設を数名の有志と募り、平成14年4月「OB・OG、150名の賛同を得て小江戸塾設立から20年間、アツという間だったなと思いますね。

しかし、一期生には年齢という壁があるんでしょうか？ 年々減少に至り令和3年の塾生名簿によると14名と、塾生全体比6%弱と寂しくなりましたが、私もその間近な仲間なんです。

小江戸塾10周年史以降ふるさと塾生として入会された会員生の活動が主流と成りましたし、活動の範囲、メニューも大変豊富になりました。特に女性の皆さん大変な活動です。

自他共に楽しむ最も大切なポリシーがふるさと塾の皆さんを更に明るく小江戸塾を発展させてきました。そんな仲間と共に歩める自分が嬉しいです。今後も更に期待が膨らみますよ。



舟橋前市長と



仙波小 川探検



勉強会



作品

小江戸塾で得たもの

18期生 小池 弓子

20周年。長くて早かったですね。

50代半ば、現職中に入会し、地域活動で、先輩達を見ながら、教えてもらいながら活動して来ました。先輩達は生き生きと動いて、細かい物でも丁寧に作っていました。私自身これほど長く活動出来るとは思いませんでした。子供達の笑顔や元気を貰って支援者と和気あいあい楽しく支援出来た事が、次の活動へと繋げていったのではと思います。支援者の皆さんに感謝いたします。支援する事で学びも得られました。得意ではない折り紙も何んとか出来るようになりました。折り紙は世界共通の遊びです。伝承行事や伝承遊び等の歴史を知り、日本文化の奥深さを感じます。いろいろな人達の出合いと思い出が交差します。

子供達に何を伝えたいのか解らなくても伝わるものがあると思っています。今こそ小江戸塾の活動は大事で、これからも続けて行きましょう。地域活動と共に同窓活動では「ハイキング」、「史跡めぐり」共に100回記念を突破して、まもなく200回記念になるでしょう。

いろいろな処に行く事が出来ました。「ハイキング」では歌集で皆さんと歌ったり、懐かしい思い出です。「史跡めぐり」での歴史の学びは、昔の人達の知恵や活躍に驚かされます。幹事さん達に大変お世話になりました。川越生れの私は「小江戸」と言われ嬉しく思います。小江戸塾でたくさんの喜びを得る事が出来ました。有難うございました。これからもよろしくお願い致します。



水鉄砲



餅つき体験 「わあー重いね！」

配達業務で困ったこと

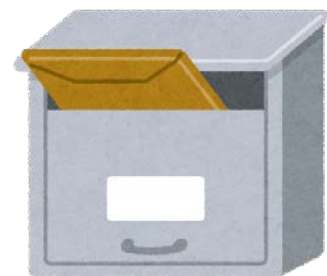
平成18年度ふるさと塾 佐野 功

昨年の10月17日曜日の午後、所属クラブのマンドリンの合同練習が富士見市であり、夕方終えて帰宅のため上福岡駅に向かい20分ほど歩いた。何とはなしに身体が浮くような感があった。

翌18日は小江戸塾の広報印刷物の配達の日、少しだるさ感があったが、配達は午後によようと、市内で先に用事を済ませ、帰りにさわやか活動館に寄った。配達の封筒9通を受け取り、自宅に戻る途中、2名分だけは配達を済ませ、正午頃、帰り着いた。寒い、だるい、昼食後、横になり寝る。しばらくして目が覚め、起き上がろうとするが体に力が入らず節々が痛い。体温を計ると37.9℃。夕食後には38.5℃。眠ろうとするが節々が痛み、だるくて、身のおきどころがない。

翌日、夜明け前の4時前に汗がぐっしょり、39.0℃。改善の兆しがないので医者に行くことにする。いつもお世話になっている医院に電話してみるが発熱外来は扱ってないので断られる。インターネットで発熱外来に対応してくれるところを探し、電話で10時半に予約する。医者に行くが、待合室に入れてもらえず、玄関の外で待つ。しばらく待った後いれてもらいPCR検査、インフルエンザ検査を行い、コロナでもインフルエンザでもないとの判定。診察を受け、血液を採取して胸部レントゲン撮影。薬局で熱冷まし薬を処方してもらい帰宅。まだ配達をしてない6名分の封筒が気がかりだが動きが取れない。翌日また医者に行き、好中球性細菌肺炎と診断され、高熱は3日位で下がるだろうとのこと。配達封筒は切手を貼って投函とも思ったが、急を要すものがなかったので熱が下がってからと思い、休養することに。38℃～39.5℃の熱が3日ほど続きその後の4日間は37℃台に落ち着く。1週間ほどして遅れたお詫びをいれて6名分の封筒を配り終えた。

配達は15～6年もやってきただろうか。80歳を過ぎた今まで、このようなことがなく、自分ではまだまだとは思っているが、代わってお願いできる人にそろそろあたり、皆さんに迷惑を掛けないようにとも思っている。



相撲甚句「小江戸塾」

土田 孝

前唄（祝い）

祝いますぞえ 20 年を
小江戸 川越 小江戸塾よ

前唄（仲間）

揃うたや 揃いました 仲間が揃た
小江戸塾によ仲間が揃た

後唄（さらばや）

さらばや ここいらで 唄の節をかえて
いまもかわらぬ相撲取り甚句

本唄（川越 小江戸塾）

小江戸塾をば甚句によめばよ
時代をつぐむか時の鐘
江戸の息吹は喜多院で
歴史も深きこの町で
生きがい求め集い来て
地域社会につくさんと
仲間と共に支えあい
英知の道を究めつつ
ふるさと塾やハイキング
史跡巡りやカラオケや
学び、遊びし喜びを
絆は強く結ばれて
小江戸 川越 小江戸塾よ

囃子唄

たとえ齢を重ねても
強い心身心がけ
通う川越 小江戸塾
さあさー 生きがい 生きがい



3. 同窓活動の思い出

「小江戸塾」歌声喫茶

鈴木 二郎

昭和40年代まで流行していた歌声喫茶を思い出し、小江戸塾でできないか考えました。最初は月一回のサロン日に、私のギターとハーモニカの伴奏で童謡などの曲を中心に、みんなで合唱することから始めました。その後会員の皆様に案内通知をして、月一回公民館で「小江戸塾」歌声喫茶を開催するようになりました。参加した皆さんと懐かしい歌とおしゃべりで楽しいひとときを過ごしています。



ギター伴奏



中央公民館にて



ハーモニカグループと



伊勢原公民館にて

小江戸塾20周年記念に当たって

「カラオケ同好会」世話人 村田 軍平

我が「小江戸塾」も明年の令和4年3月には晴れて20周年を迎えることになるとのこと、誠に喜ばしく、かつ、めでたいこととあります。

私は「小江戸塾理事」であった当時、「同窓活動担当」となり、以来今日まで「カラオケ同好会」の世話役を担当している者です。

「カラオケ同好会」は、毎月1回、「本川越駅」そばにあるカラオケ店「まねきねこ」で集って楽しむことを計画して、その計画を「月報」で会員にお知らせすると、概ね10名前後の喉・声自慢の男性・女性会員が応募してくださり、和気あいあいと楽しんで絆を深めることができたものでした。

しかし、令和元年末ころから「新型コロナウイルス感染」が顕著となり、遂には感染予防のためカラオケ店は休業状態となり、これに伴って、令和2年2月をもって、我々の楽しみであった「カラオケ同好会」も休止せざるを得なくなりました。

それから約1年10か月も経っているのですが、最近「緊急事態宣言」が解除され、若干開放的なムードが出てきた感ができて「これは近く同好会再開かな！」と淡い希望を抱いたのですが、今度は「オミクロン株」ウイルスの出現で同好会再開もまた遠退いた感じがして、いささか落胆しているところです。カラオケルームは、密閉された個室であること、換気がしにくいこと、参加者が密状態になりやすいこと等から感染リスクが高くなると思われることから、現状では再開することは困難であり、完全に収束するまで我慢するしかないかと思えます。

来年の「小江戸塾」発足20周年記念日までには是非再開を実現して、末永く継続させたいと願っているところです。

どうぞ会員の皆さんには今しばらく我慢していただき、再開された暁には奮って参加していただきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。



(2021.12)

「楽食スマイル」の活動

古山 廣子

「楽食スマイル」の活動は小江戸塾会員の親睦・交流の場として2019年4月に第一回が開催されました。食事をしながら小江戸塾のこと、旅行のことなど情報交換の場としてのお昼のひと時を楽しく過ごしています。久しぶりに会った方々、初めて参加された方それぞれの笑顔がお食事に花を添えています。

今までに6回開催しましたが新型コロナウイルスが蔓延して残念ながら休止しています。男性も毎回数人参加されています。参加された方の中には、良かったので後日ご家族でまたお友達とお店に行かれたとのお話も聞いています。

川越は観光客も多いですが飲食店もたくさんあります。世話人一同皆さんに喜んでいただけるお店をと楽しんで探しています。初めて参加される方もおひとりの方も男性女性は問いません。お昼のひと時をお食事しておしゃべりをして楽しく過ごしませんか。お食事場所は市内、偶数月に開催しています。会費は実費です。

どこに行くのかは当日のお楽しみの“ミステリーランチの会”です。皆様の「楽食スマイル」のご参加をお待ちしています。



チョコペンの絵がみんな違って楽しい“デザート”



ロコモコ丼



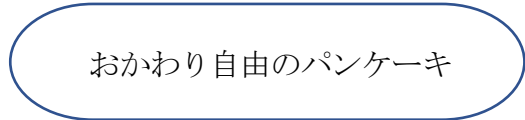
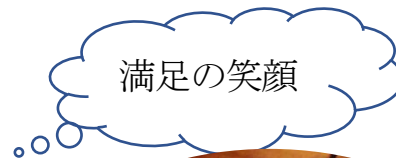
「楽食スマイル」に参加して

市ノ川 定男

皆様、楽食スマイルの食事会に何度か参加させていただいた時に、世話人の方々のおかげで、普段ひとりでは行かない分からないような身近な所に、例えば「本川越駅の近くの踏切の脇の階段を登った所」や「伊佐沼から少し離れた住宅街の中にある農家カフェ」とか、こんな所にこんな店があるのだと新しい発見もありました。

店の近くを散歩も出来たし、何より楽しく話しながら笑いながら食事をするのが良いですね。みんなで食べると楽しいので、毎回楽しみにしていました。

ここ二年くらいコロナウイルスで食事会を行えないのは残念ですが、コロナウイルスが落ち着き新しい企画があれば参加したいです。



「楽食スマイル」を楽しむ

伊藤 恵子

小江戸塾楽食スマイルに参加して楽しんでおりましたのに、新型コロナの影響で休みに残り残念でなりません。

これ迄は実施日が近くなると、どこのお店に行くのかな？どんな店内でどのような器にどんなふうに盛り付けられ味はどうだろうと想像し、楽しみにして当日を迎えました。

ランチを食べた後の「あゝおいしかった、川越にこんなお店があったのね」「この次はどんな所へ連れていってくれるのかしら？」とおしゃべり等と交流もでき、満足感を味わっておりました。

新型コロナがおさまり、早く再開して「楽食スマイル」を楽しみたいです。

「蕎麦打ちを楽しむ」

原 稔

蕎麦の粉が霧のように舞い、快い香りが立ち込めている。

擦り鉢に手を入れると、まるで空気に微細な粉が混ざった物の様に思える。

そば粉の霧は頭から顔と薄化粧のごとく覆われ、気づくと眼鏡の表面は白くなりそば粉に全身覆われたように感じる。

そして、多少ひんやりとした感触で蕎麦打ち（そば切り）が始まる。

蕎麦打ちは難しいものと考えている方、道具を揃えるのが大変と思っている方

本当に美味しいそばを食べたいと思っている方、体験しなければ永久にありつけないものです。

蕎麦打ちも真剣に取り組まなければ、蕎麦は正直に形と味に表れます。

そんなことを言うと、難しいのか易しいのかどっちだとおっやるでしょうが、

簡単です・・・

しかし、奥深いものです（感想）

現在の蕎麦の会メンバーも毎回出来具合が違うことでしょう、それがまた面白いところなのかも。



蕎麦打ち

そば粉も全国で数多く各地の自慢の蕎麦があります、いろいろ試して見るのも楽しみ、食べ方も工夫次第で更に蕎麦の幅が広がると思います。

今は秋そば（新そば）の季節、蕎麦の会メンバーも自前の蕎麦で家族、近所の方に提供して反応（美味しかったです・・・）を期待して頑張っています。



生地を延ばす



生地を切る

蕎麦打ちを始めて

立見 光行

若いころから蕎麦は好きで食べていたのですが、おいしい蕎麦かどうかは関係なくうどんとの比較で食べていたと最近は思っています。

蕎麦打ちを始めたのは、いきがい大学の仲間とうどん打ちを始めたのがきっかけで、栗田さんのお誘いを受け蕎麦打ちを始めました。5年以上の歳月が経ち、多少進歩したとは思いますが、ど素人の域から脱していないと自覚しています。

家庭でも時折打つのですが、出来栄えとは関係なく、家族からは既製の生蕎麦や冷凍蕎麦より美味しいとおだてられ、その気になって蕎麦打ちを楽しんでいる今日この頃です。

麺類全般に言えることと思いますが、食べるときのつゆやたれにも、その味は左右されると思います。おいしいつゆを探すのも蕎麦を楽しむ（味をごまかす？）知恵かも知れません。

「蕎麦の会」に参加して

竹川 令子

「蕎麦の会」のメンバーとなり三年半になりました。月一回の月報で「蕎麦の会」の存在を知り、是非体験してみたいという強い気持ちが湧き同会のメンバーになりました。女性でも出来るのか不安もありましたが、先輩方の親切なアドバイスのお蔭で今に至っています。蕎麦打ちは同じ工程の繰り返しです。一つ一つの工程が重要で簡単なものではなく、毎回今日は良く出来るだろうかと祈りながら打っています。出来上がった蕎麦は大変美味しく感激しています。蕎麦打ちは腕の力もいるので体力の維持も必要です。道具も揃えているので、年越し蕎麦は毎年作っています。今後の目標はいかに細く綺麗な蕎麦に仕上げるかということです。これからも趣味として楽しく蕎麦打ちをしていきます。

小江戸塾「蕎麦の会」が長く続くようにメンバーとともに楽しく交流をはかりたいと思っています。



蕎麦打ち



生地を延ばす

「料理を楽しむ会」と私

佐藤 民雄

コロナ禍で、思うように活動ができない昨今。早くコロナ禍がおさまリ、仲間たちと料理を作って楽しみたいですね！「料理を楽しむ会」に参加してもう5年になります。あるときテレビでシニアでも簡単に出来る何とかという料理番組を何気なく見ていたら、それは一人になったときの将来の備えや自立をテーマにしたものでした。料理は難しく考えることはなく基本を教われれば誰にでも出来、作る、食べることは人間の本来の楽しみの一つであると言っていた。参加している人たちが笑いながら楽しそうに料理していた。やってみみたい気持ちがあるけれど少しハードルが高い、一步を踏み出す勇気が必要だった。なぜなら料理をほとんど作った事がない。（インスタントラーメンつくる程度、料理ではないね！）本当に料理が作れるのかわからなかったからです。一人になっていざというとき多少、料理が出来ればいいなどの思い、また楽しくやれるかもしれない。そんな理由から「料理を楽しむ会」に参加しました。初めて参加した時、手際の悪さ、ぎこちない包丁の使い方等、当然思うようにはいきませんでした。苦勞しながらも、皆さんの力を借り一緒にやっけて、作る楽しさを知り、家事の大変さも分かった。また気分転換の場でもあり、また料理を話題に話す機会も増えた。出来上がった料理を盛り付け、出来栄等感想を述べあいながら、会話も弾み、共食するのも楽しみの一つです。これからも定期的に「料理を楽しむ会」に参加したい。料理を通して新たな経験と知識を習得とかけがえのない仲間づくり、そして親睦を深めていきたいと思ひます。

料理の大切さ、面白さ、シニア世代にとって健康の源は毎日の食事をきちんと食べること、手を動かして、頭を使って美味しく食べる、何よりの健康の秘訣だと思ひます。



楽しく料理



いただきます！

『自然の中へ…!』・・・『フィールド ウォッチ』

伊藤 敏介

『私たちの身の回りには、まだまだ素敵な自然が残っている。そんな自然に気軽に足を運び、その素敵な環境の中で自然に触れ、その中で息づく「いとなみ」を直に感じる。そんな機会を持ってもよいのではないか?』・・・こんな思いから、2015年春に立ち上げた「フィールドウォッチ」ですが、自然の中に“潜む”形さがしなどの「ネイチャーゲーム」、季節に応じた「自然観察」、自然の“恵み”を使った「葉づくり」…などを楽しんできました。この活動の中で特に印象に残ったことは、参加した皆さんのだれもが、童心に戻り、夢中になって、きらきら輝いた笑顔で、一生懸命楽しんでいるのを発見できたことです。・・・そうです! これこそが、発足当初に漠然と描いていたこと(次の一節)へのヒント(=モットー)のように思われます。

『自然の中にとび込み、自然を満喫し、そして とことん楽しむ・・・その中で、次の世代(子供たち)に伝えたい何か大切なことが見つかるのでは?』

コロナ禍で中断を余儀なくされた一昨年(2020年)まで14回を数えてきました。現在のフィールドは川越水上公園に限っておりますが、小江戸塾会員主体の「バーベキュー」「芋煮会」との好コラボで、ひと運動の後ののどを潤す「至福の時」も楽しみの一つとなっています。

みなさんも、ぜひ一緒に 自然の中に飛び込んでみませんか!



童心に還って!



「今日も楽しみましょう!」(スタート)



「なにかあった〜!!」(発見)



今日の成果は?(反省会)

「公園ウォーク」

石井 幸子

「毎日の移動手段として行っている『歩く』ことの視点ややり方を変えることで、より効果的な運動に変化するとしたら、とても良いことではないでしょうか。毎日歩くときに、さりげなく取り入れていただき、無理のない自然体で自身の健康を向上させていきましょう。」という思いで、月1回行っていたのが「公園ウォーク」です。

ウォーキングは手軽なスポーツですが、ただ歩くだけではなく、健康に効果のある正しい歩き方を身に付けて、公園内を自分のペースで歩いていただきます。

2019年4月から始め、まずは美しく歩く姿勢を身に付け、2020年1月からは効果的に体力向上がねらえる「インターバル速歩」を取り入れました。が、この年の4月からは数回行っただけで、現在は休止中です。

「インターバル速歩」とは、本人がややきつと感じる早歩きと、ゆっくり歩きを3分間ずつ交互に繰り返すというウォーキング方法である。それを1日5セット、週4日以上繰り返すと、5ヶ月間で体力が最大20%向上（10歳以上若返った体力が得られる）、生活習慣病の症状が20%改善し、うつや関節痛の症状も50%以上改善し、その結果、医療費も20%削減できるということが明らかになっている。（「ウォーキングの科学」能勢博著より）

公園ウォークは月1回ですが、その間に無理することなくマイペースで取り入れていただけたらと思っています。

今までに行った公園は、川越水上公園、狭山稲荷山公園、所沢航空記念公園、彩の森入間公園、都立小金井公園、埼玉県営和光樹林公園、岸町健康ふれあい広場です。



川越水上公園では
さくらコース(左図の赤コース)
を利用しています。

下の写真のような赤いラインに沿って歩きます。100mごとに印があるので歩く距離が解り便利です。



公園ウォークに参加して

曾我 孝二

それほど運動が得意なわけでもなく、BMI も高く、フレイルとかプレフレイクが話題になり何とか身体を動かす機会を持ちたいなと思ったところに、「公園ウォーク」の呼びかけがあり登山やトレッキングほど負担が少ないと思い参加を決意しました。最初は川越水上公園の回に参加をしました。簡単な歩き方の基本や姿勢の指導が有り遊歩道を歩きます。あくまでも無理をせずに自分のペースでと念を押されました。晴天の元、胸を張りちょっと大きめの歩幅で歩くと薄っすらと汗をかき、気分も爽快になります。途中水分補給と休憩をはさみ約1時間半の活動でした。皆さんとおしゃべりしながらの運動です。取り留めのない話をしながら歩く事はストレス解消になり楽しいひと時です。参加の都度一つずつ歩き方の指導が有ります。丹田に力を入れてとか、腰を前に出すようにとか、300m 速足でその後200mをゆっくりとの繰り返しとか。「さあ次回は稲荷山公園です。次は所沢航空公園。順次色々な公園を回しましょう」という事で出来るだけ参加を心がけています。歩くことを積極的に取り入れる必要を感じました。

「公園ウォーク」と私

古山 廣子

運動不足の私は「公園ウォーク」と聞いて迷わずに参加しました。市内外の公園等で開催され、新緑や桜の花の中で森林浴をしながら楽しくおしゃべりをして自分のペースで歩きました。回数を重ねるうちにインターバル速歩(早歩きとゆっくり歩きを交互に数分ずつ行う)も教えていただき、体に良い歩き方を体験することもできました。

参加して間もなく踵が痛くなり見学することもあって、皆さんが楽しそうに歩いている様子を見て歩けることの喜びと大切さを実感しました。ちょうど新型コロナウイルス禍で活動も休会になり、通院とリハビリを続けてようやく歩けるようになりました。今は歩けることの有り難さを感じながら少しずつ無理せずに歩いて「公園ウォーク」が再開できる日を楽しみにしています。

「公園ウォーク」の魅力

河村 広雄

公園ウォークに3つの魅力を感じながら参加しています。

魅力の一つ目は、気軽に参加できることです。2km前後のコースを20~30分程度で一周して一休みし、90分の活動の中で何回か繰り返します。景色を見ながら、歩くことに全神経集中して、又途中休憩も有り等自分のスタイルで無理なく楽しめます。

二つ目は、毎回石井講師よりワンポイント講義があり、それをテーマとして活動できることです。今日は①お腹を引き上げる②胸を開く③腰を緩める・・・を意識しながら正しいウォーキング姿勢を身に着けることにつなげます。

三つ目の魅力は、ウォーキング以外の新しい発見があることです。川越市中台元町の八雲神社の近くにある小さな公園「川越市岸町健康ふれあい広場」には、230mのウォーキング走路とフィールドアスレチック・健康器具があり、身近な運動公園として利用できます。そこにはアメリカという名の桜も数本あり“今度は桜の咲くころにも来てみよう”と想像は膨らみます。次の公園ではどんな発見ができるのか期待に心も弾みます。

身体と頭と心を使った公園ウォークで心身の更なる健康を目指します。

史跡めぐりクラブ

代表 大金 正司

鎌倉や京都又は温泉地に旅行をします。すると耳にするもの・目にするものは、先人たちの創られた神社仏閣やその歴史、または、自然遺産等が多いと思います。事前にそれらの生い立ち・環境・背景などの知識があるとより楽しい旅行となりまね。

歴史とは現在と過去の対話であるといわれます。

歴史を知れば旅は楽しくなります。旅が楽しくなると人生が豊かになります。

先人たちの考え、行動、そして残された遺構は私たちを待っています。

史跡めぐりクラブは、その様な事を考えて活動し、皆様をご案内しています。

一人で勉強したい場合は、古地図による江戸城下町散策等は、頭の体操・健康づくりなどに最適です。フレイルや認知症予備群など逃げてゆきます。

2007年3月に発足しました史跡めぐりクラブは、初回に上野寛永寺から谷中方面への散策から始まり、2020年1月の雑司ヶ谷七福神巡りで一時中断を余儀なくされました。この間、**13年間114回、延べ3247名の参加者**で支持されました。江戸城下御府内を中心に武蔵野地区全般にわたりご案内し、新年には江戸近郊七福神巡りでご一緒に福を頂き、バスによる史跡めぐりでは車中の楽しみも加えました。

新型コロナ旋風の下、外出が制限された時間で「史跡めぐりクラブ13年間の足跡」を編集しまして関係者にはお配りしました。

2021年12月より再開いたしました。また新しい史跡・思い出の史跡なども含めご案内し、多くの皆様の参加と楽しい会話ができることを楽しみにしています。



史跡めぐりの勧め

森 久美子

史跡巡りクラブの活動に参加し、運営のお手伝いをさせていただくようになってもう15年にもなるのですね。

例会も平成30年には、100回をかぞえました。

江戸時代の歴史のスペシャリスト大金代表のもと、運営委員の作業は、行ってみたい、興味のある、埼玉東京の近郊の史跡を探し出すところからはじまります。その後、あーでもない、こーでもない話し合いながら実施する場所を選びます。下見をして、無理なく楽しく歩け、ちょっぴりお勉強になったなと思えるような行程作りや資料作成をして例会に臨みます。



いつのころからか、昼ご飯も同じ店で一緒にいただくようになって一層和気あいあいとした例会になっていたように思いますが如何でしょう。

コロナ騒動で思ったような活動が出来ない昨今ですが、興味のある方は一緒に活動してみませんか？中々楽しいですよ！

史跡めぐりに寄せて

榊原 妙子

平成16年、ふるさと塾に参加し、川越の史跡や古い建造物が身近な場所にたくさんあることを知り感動しました。

その後、小江戸塾に入塾し史跡巡りクラブに参加しました。

次々と新しい史跡、土地を巡りました。

埼玉県のみならず関東一円、長野県、静岡県など、年に2度程バスの旅もあり思いもかけない発見や経験が積み重なり充実した年月でした。



そんな時「緊急事態宣言」が発令され、2年近くも身動き取れなかったことがとても悔しく残念でした。コロナ旋風後久しぶりに史跡巡りが再開され今回は草加宿七福神巡りでした。

小さい祠の中の神様に手を合わせ、ことしの幸を祈りました。雪がちらつく帰路は美味しい草加せんべいをお土産にしました。

これからも、楽しい史跡めぐりがおこなわれますように期待しております。

ハイキングクラブ

山崎 有康

朝起きて空を見ると、いちめんの青空が広がり、楽しい歩きが待っている。このときの期待感が私の心を、気持ちを、満たしてくる。

ハイキング第1回は2002年11月日和田山物見山。以降、年間10回近く開催し、2021年12月には第180回になった。

ハイキングクラブは、世話人として約8名が、毎年2月ごろに4月以降の半年間計画を立て、8月には下期の計画を作っている。

最近の主な行き先は、

172回 5/10（月）久須美坂・釜戸山

173回 6/18（金）野火止用水

174回 7/12（月）黒山三滝・顔振峠

175回、176回、177回、178回は小江戸塾が活動中止のため中止

179回 11/25（木）奥多摩溪谷

180回 12/2（金）風の道(波久礼駅から)



久須美坂参加者



宮澤湖



天覧山

ハイキングの勧め

世話人 吉沢 和夫

小江戸塾の設立当初から活動をしている。ハイキングクラブは、毎月一回活動を実施しています。

山を歩いていると日常生活では当たり前のことに幸せに感じるものがたくさんあります。ゆっくり歩くと景色も美しく見え、登りでちょっと辛い時も道端に咲いている花に慰められ、休憩時間に飲む一杯の水がおいしいこと、豪華な食事ではなく一個のおにぎりがとてもおいしいこと、山頂に立つと汗ばんだ額に吹く風が心地よいこと、山から帰ると体は疲れているが心地よい疲労で、ゆっくりと風呂に入る幸せ、布団でゆったりと眠ることができる幸せ、自宅へ帰ってからもたくさんの幸せがあります。

皆さんの親睦と健康のため、活動を続けていければと思います。

ハイキングの勧め

吉原 せつ子

私は、平成28年度ふるさと塾で川越の勉強をさせていただきました。その後小江戸塾のこの説明を聞き、ハイキングに興味があったので加入することにしました。もう5年になりましたが、いろいろな場所に行けて、体重も少し減り、自転車ばかり使っていた私は、少し歩くことに自信がもてるようになりました。

現在は世話人もやらせていただき、行きたい場所を考えるのはとても楽しいです。ぜひ一人でも多くの方に参加していただきたいのに行きたい所がありましたら、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。これからも たくさんの方といろいろな場所へ、ハイキング、ウォーキングしたいと思います。ご参加お待ちしております。

小江戸ハイキングに参加して5年

丸山 悦子

小江戸ハイキングに参加して5年。最初は「楽しそう」と単純なものでした。何回か参加しているうちに次の例会が楽しみになってくる自分に気がつきました。

この5年間で感動した例会があります。第170回堂平山です。私にとって876mは初めての山です。不安と楽しみの参加でした。仲間の方々と頑張って登った堂平山。山頂からの眺めは最高！疲れも吹っ飛びました。昼食をとり下山、白石車庫バス停に向かって歩いていくと、目前に広がる風景は「里山の春」そのものでした。ハナモモ、ハクモクレン、レンギョウなどピンク、白、黄の花々が一斉に咲き、美しい彩りの春の里山となっていたのです。この風景に疲れた身体と心は癒されました。いつかまたこの感動に出会いたくて山歩きを楽しんでいます。

世話人（まだまだ実力はありません）として感動を共有する例会が出来ればと思っています。

皆様のご参加をお待ちしています。

「書道クラブ」のこと

書道クラブ 青木 政代

私は小江戸塾の一期生です。最初の二、三年は本部の手伝いをしたり、学童支援の諸々の行事に積極的に参加して楽しい時間を過ごしていました。その頃、私が書道教室を開いていることを知った仲間に依頼されて、平成十七年に「書道クラブ」が誕生したのです。毎月末の火曜日、今年で十七年になります。

さわやか活動館の登録名が「彩墨庵」となっているのは、「パソコンクラブ」が先に誕生して小江戸塾の名前で登録してあり、二つのクラブは使用不可の為、私の個人教室名で登録することになったのです。「クラブ」では、楽しく練習しながら親睦を深めることも大切な目的にしています。当初は上野の都立美術館、神奈川県立美術館等に遠出して、書展を見学した後の食事で親睦を深めたりしましたが、近年は練習後の昼食会がほとんどです。

実技ですが「漢字の書体」の楷書から始めて行書、草書、^{レイ}隸書、^{テン}篆書・・・と古典文字までも練習して（継続は力なり）、私の教室展（アトレ6F）に出品したり、「中央公民館まつり」で発表の場ができると、各自が作品づくりに挑戦するようになってきました。

（写真）これらの作品は「破体書」と言ってお私が所属する「東洋書道芸術学会」が推奨する、二種以上の文字を使って表現する書法です。奥が深くて楽しい書道です。この二年はコロナで書展も休みでしたから、次回の作品展にはどんな・・・思案中です。



中央公民館まつりにて

「筆を持つ幸せ」

鈴木 順子

小江戸塾の書道クラブに入れていただき、1年と半年が過ぎました。

ふるさと塾令和元年（2019年）に楽しく学ばせていただき、その時から、書道をしたいと希望していたので、小江戸塾の先輩にここにも書道の集まりがあることを教わり、早速入会させていただきました。

以前に住んでいたところでは、書道教科のある私立の学校で大人の書道教室があり、そこで、10年近く楽しく通っておりました。

なかなか一人で筆を持つことは難しく、教室に通うようになると、必然的に筆を持つことになり、また先生に見ていただくことによって、より励みになるので、今は、とっても楽しくかせていただいています。月に1回の教室に仕事の都合でいけないこともありますが、そこに行くと、先生も先輩方も優しく、私自身真剣に筆を持ち書を書くという時間を与えられるということは本当に幸せなことなのです。これからもどうぞ見捨てずによりしくお願いいたします。

書道を始めて

大野 俊夫

我が書道クラブは、会員10人弱、毎月1回「さわやか活動館」で活動している。また、全員が年1回中央公民館まつりに参加して作品を展示している。私の場合、まだ展示に耐えるレベルではないが次のステップにつながると思い恥ずかしながら展示させてもらっている。

通常の活動は、手本を見て書き、青木先生に指導してもらう。なかなか手本通りには書けない。うまく書けたかなと思っても最後のところで失敗したり、また、書いた後よく見ると字が委縮していたり、均斉が取れていなかったりする。書は性格やその時の精神状態がよく現れる。小学生の書初めなどを見るとおおらかで力強い筆づかいをしている。あんな字が書けたらなとつくづく思う。

なかなか思うように書けないが、私は書に集中している時間が好きである。小学生が友達と楽しそうに学校に通うように私も月1回の書道クラブに通っている。



「上手に書けましたが、ここのところはこうやって…」



「先生、うまく書けたでしょ」

パソコンクラブの歩み

代表 山崎 有康

活動開始：2003年7月11日中央公民館で川越市生涯学習課のご指導のもと、第一回開催、15名が参加。以降月3回のペースで開催。

パソコン：パソコンは中央公民館から8台くらい借用し、2006年ごろからノートパソコンを購入する会員が徐々に増え2007年にはほとんど自分のパソコンを持参するようになり、現在は全員が自分のパソコンを持参しています。

開催状況：場所は中央公民館で、初年度（2003）は月2回開催、翌年度以降月3回午前中（金曜日2回、火曜日1回）開催し、年間36回開催してきました。

特徴：講習会形式ではないので、いつでも参加することができ、自分の希望や必要とする内容に合わせて、各自がパソコン操作の方法を習得するようにしています。

取り組み：初心者はWORDやEXCELの学習書（500円くらい）を各自購入し、最初のページから順に飛ばさずに書いてあるとおりに操作して最後のページまで進め、再度最初のページから進めると、3回目から理解できるようになります。また、中央公民館の文化祭にも参加して作品を展示しています。



中央公民館文化祭出品者



中央公民館パソコンクラブ例会



中央公民館文化祭会場



中央公民館文化祭展示作品

「パソコンクラブ」入会動機について

毛利 司

令和4年の年が明け、1月に「パソコンクラブ」に入会させて頂きました。

今日まで、これといった趣味がない私は、後期高齢者となる年齢が近づき、これから先の楽しみを見つけようと、強く思うようになっておりました。

月報でいろいろな同窓活動は存じておりましたが、「パソコンクラブ」は以前から入会したいと思っておりました。

ただ、手持ちのノートパソコンが古く、入会には中々踏み切れないでおりましたが、勇気を出して入会希望の連絡を入れました所、暖かく迎え入れて頂きました。

入会前の私は、「パソコンクラブ」では講習会があり、パソコンのイロハを教えて頂けるとおっしゃってましたら、講習会はなく解らない所は皆さんから教えて頂きながら、共に楽しく過ごすクラブと聞き、教本も紹介して頂きました。

いつまで続くか分かりませんが、頑張っていこうと思っております。

俳句の会と私

宮崎 大

小江戸塾の俳句の会は、発足して二年余りです。地味ながら会員それぞれが集う度、互いに程良い刺激を受けて勉強し合うのは、何事にも代え難い尊い事を思っています。

楽しみ方は色々ですが、目や耳や肌に合い、心に響く事柄を十七文字で表現するのは平凡な日常を楽しくしてくれます。国内旅行もままならず、海外等全く望めないこれからの人生、近場の出来事に目を向けて今迄とは違う角度からの句作りを、と考へて居ります。

○これまでの句会開催：2019-9-17～2021-12-8、延べ 19 回

参加者数： 〃 、延べ 172 名

投句数： 〃 、延べ 691 句

○最新の選句は次の通りです。

去年今年 変らぬ日々と 鐘の音	金子 隆司
年末の 家庭菜園 やせ大根	佐野 功
家ごもり コロナコロナで もう師走	鈴木 二郎
時の鐘 乾いて響く 年の暮	石田浩二郎
掛け声が 山に銜し 餅を搗く	田中 哲夫
歌に舞い 枯れ葉に舞って イブモンタン	並木 伸雄
独り飲む 酒も切無き 年の暮	宮崎 大
午年も 馬齢重ねし 年の暮	大矢真紀子
足止めて 帰る二人の 冬夕焼	中村 和子
晩秋を 惜しむもみじか 燃えつきて	川口 和子
冬至湯や 心も解す 月あかり	小池 弓子

「小江戸塾俳句の会」

田中 哲夫

私と俳句との出会いは、もう十年になる。本来、私はエッセイの方が得意だし、感情を17音に閉じ込めてしまう俳句は苦手であった。それでも自分の生きてきた軌跡を俳句として残したいという願望があり、当時埼玉県を中心に活躍していた先生に師事した。先生からは、季語の使い方や、感情を直接言い表すのではなく物事に託す。助詞の使い方などを徹底的に指導された。時に壁にぶつかりそうになった時に私の前に出現したのが、「小江戸塾」俳句の会であった。15人前後の句会で肩の凝らない俳句の発表会である。兼題といってテーマを決めて作って持ち寄るといった事もあるが、大半の題材は自由である。楽しい句作りといった感じで毎回楽しみである。多少でも会員の中で挑戦してみたいと思う方は、是非参加して頂きたい。



句会の様子



俳句の会

「小江戸塾」ミュージックメイト

鈴木 二郎

私たちミュージックメイトの結成のきっかけは、メンバーそれぞれが別のグループで活動していましたが、7年前に小江戸塾のバンドとして活動することになりました。結成後は月2回程度の練習を重ね、童謡などを中心にレパートリーを広げてきました。

活動の場は小江戸塾の他に公民館や介護施設などで音楽会を行っています。音を楽しむという事を基本に活動をしています。これからも楽しく演奏活動を続けて行きたいと思えます。



ミュージックメイトのメンバー



フルート・マンドリン・チェロ演奏



演奏風景



一緒に歌いました

ミュージック・メイトに参加して

平成 17 年度ふるさと塾卒 佐野 功

ミュージック・メイトの結成は 2013 年（平成 25 年）。

現在のメンバーは北村さん(チェロ)、工藤さん(ヴォーカル)、鈴木さん(ギター)、並木さん(フルート)、佐野(マンドリン) の 5 人。

メンバーの皆さん大人？ 人格者揃い？ で無理を言わない。

工藤さん、並木さんは飴玉、みかんなど毎回のよう差し入れてくれて、和気あいあいの練習を、大体月に 2 回楽しんでいる。一人で練習するよりも合奏はより楽しい。精進の甲斐あってか演奏技術も発足当初に比べ大分上達したかなと自負している。

この 2 年ほどはコロナ禍で対外的に演奏する機会がないが、2019 年までは公民館の春や秋のまつり、小江戸塾のコンサート、また、老人の集まりや介護施設に出かけ、日本の童謡、叙情歌、歌謡曲をお届けして喜ばれた。また、おこがましいが施設からの招への催促もある。

早く暖かくなりコロナ禍が収束して対外的な活動を再開し、私たちにまた、元気をもらいたいたいものである。

夢の時 “音楽の仲間と 8 年”

小江戸塾ミュージックメイト 並木 伸雄

私が「小江戸塾ミュージックメイト」のメンバーに入れて頂き早くも 8 年が過ぎました。

参加当初、リーダーよりここの仲間のモットーは「楽しく、仲良く、音楽を楽しむ仲間」の集まりと説明を受け、このメンバーへの入会を決意しました。私は 72 才でフルートを習い始め、どうにか音の出る状況でした。

老いの手習いのチャンス倒来と以降練習に励みました。私達のバンド名「小江戸塾ミュージックメイト」の活動と行動内容は、名前通りのそのものでした。

月 2 回の合同練習の成果もあり、演奏できる曲も「童謡、抒情歌、誰にも親まれる歌」等 50 曲近く。活動も多岐に亘って、①小江戸塾の行事、②公民館、③高齢者施設、④クリスマスフェスティバル等多くの場の催しで演奏させて頂きました。高齢者のバンドとして多くの皆様に親しまれてきました。「春を待つ音を楽しむ仲間かな」。これからも小江戸塾の皆様と共に更に精進したいと願っております。

親父バンド「ボイスオブメモリー」の活動報告

中島 義則

ボイスオブメモリーは、「昔懐かしいフォークソング」と「グループサウンズ」の曲を中心に、愉しく歌う親父バンドとして平成30年3月に結成されました。

使用する楽器はギター2本とタンバリン&マラカスだけです。

メンバーは、鈴木「小江戸塾」会長・金子元副会長・佐藤理事と私の4名です。

使用する楽譜は、難しい音符は一つもなく、歌詞とその上にギターコードを記した、いたってシンプルなものです。

練習は、月に1~2回程度、メンバー4名の都合の良い日を、練習日の最後に調整をして、次回の練習場所を確保するといったスタイルです。

これまでのステージは、内向けには4月の「小江戸塾総会」や「ふるさと塾」での同窓活動の紹介での一コマとして行ってきました。

さらに外向けには、埼玉医科大学総合医療センターの職員スタッフが、患者さんやその家族の皆さんのために主催して開催する、「サマー」と「クリスマス」の年2回のコンサートへの友情出演なども行いました。

そこでのエピソードとして、車いすの女性の患者さんがコンサート終了後に私たちのところに来られて、「懐かしくて当時を思い出し、感激で涙が出ました。ファンになりました。」と仰ってくださったときは、決して上手ではない私たちのパフォーマンスに喜んでもらい、これまでの練習してきた甲斐があったなと感じ、これからの遣り甲斐にも繋がったような気がしました。

昔の若かったころの歌には、本当に良い曲が多くあります。

これからも、当時の「青春の曲」の良さを思いっきり表現して行ければと思っています。

今後も、新しいジャンルにも挑戦しながら、音楽を通して楽しい同窓活動を展開して行きます。



さわやか活動館でのコンサート風景 (クリスマス)



埼玉医大でのコンサート風景その1



埼玉医大でのコンサート風景その2



埼玉医大でのコンサート風景その3

「ボイスオブメモリー」のボーカルとして

金子 隆司

カラオケの会で歌っていて、鈴木会長にスカウトされてボーカルを務めています。始めたばかりのころは生演奏で歌えることが楽しくて、昭和の頃の懐かしい歌を中心に夢中で練習していました。

そのうちにコンサートを行うことになり、人に聞いてもらえるような歌が歌えるのかと不安になりましたが、歌い終わって観客の皆さんから拍手をいただき、コンサート終了後に「私の世代とピッタリ重なる歌で懐かしかった。」という感想をいただき、人に喜んでもらえる素晴らしさを知りました。

今は「人を楽しませるには、まず、自分が楽しくないと・・・。」をモットーに歌を楽しみながら歌っています。

昭和の懐かしい歌を歌っていると自分の青春の頃を思い出して、「昭和は遠くなりけり」そんな感慨に浸っています。

フォークソングと私

佐藤 民雄

ボイスオブメモリーは、なつかしいフォークソングやグループサウンズ等の歌を中心に活動しているグループです。ある病院が企画したフェスティバル等に参加したり、さわか活動館でミニコンサートを開催したりしています。フォークソングを聞いたり歌ったりしていると、青春時代の感覚がよみがえり、なつかしい時間が生まれます。プロジェクトXという番組の最後に中島みゆきのヘッドライト・テールライトという曲が流れると何とも言えない気持ちなり、私たちに安らぎをを与えてくれる心の故郷ではないでしょうか！シニア世代の人たちが好む歌の一つにフォークソングがあるからです。その青春時代を思い出しながら、親しみやすい曲、なつかしい曲を選びながら、みなさんと一緒に楽しめればと思っています。

カラオケで歌うのとは異なり、楽器（ギター等）に合わせて歌うのは、慣れていないせいか合わせるのが難しい。月1回程度、中央公民館で練習をしています。私が続けられているのは、自分にとっていちばん慣れ親しんだ音楽だからだろうか、歌っていて楽しいから！ だと思えます。レパートリーもだいぶ増えました。今後もミニコンサートを発表の場として続けていきたいですね。

我々シニア世代において新たなコミュニティ創造の場として、歌を通じて、みなさんとのつながり、親睦を深めていければと思っています。



サロン日のコンサート



フォークを歌う

4. ふるさと塾の思い出

ふるさと塾の運営委員としての思い出

ふるさと塾運営副委員長

田中 喜久雄

私は 18 年前に地元自治会にデビューして、飲み仲間、菜園仲間等ができました。しかし、2015 年 6 月で 70 歳にて退職するので、もう少し活動の幅を広げたいと思っていました。その時、川越市の公報でふるさと塾の塾生募集の記事を見つけて、即申し込みのはがきを送付しました。

2015 年度の塾生は定員人数が 30 名でしたが、入塾当日の塾生は 45 名であったことに驚くと同時に 10 名くらい市外の方がいることを知りました。

私は川越市に住んで 45 年位になりますが、歴史・地理等に興味があるので、川越の事についてある程度知っているつもりでした。しかし、塾が進むにつれて、講義と現地学習の両面授業のおかげで、川越学につき更に知識を高めることができたと思っています。

私は小江戸塾に 2015 年 12 月に入会し、運営委員の先輩から次年度の運営委員をやらなにかとの誘いがあり、運営委員を務めることになりました。現在 7 年目です。

この間、講義で印象に残ったのは、谷澤先生の川越まつりに関しての奥深い知識及び松尾先生の講義テーマ以外のテーマでも話が際限なく続く知識の深さです。

運営委員の役割は班内の協調のサポート及び発表テーマの調査法・纏め法についてのサポートです。最終的には、塾生が飛行機型の企画書を纏め、これをもとに、地域活動の計画書・実施案を策定することです。私は 2 年目で運営委員の役目を具体的に理解をした次第です。

ふるさと塾は小江戸塾の新入会員募集のために重要であるので、私はこれからもできる限り運営委員を続けるつもりです。しかし、この 2 年間は新型コロナ感染状況が拡大が続く、ふるさと塾を企画しても開塾出来ず、今年も開催できるかが気がかりな点です。



川越まつりの講義

「ふるさと塾の思い出」

田中 哲夫

私がふるさと塾に入塾したのは、平成二十三年の事である。当時職場と縁が切れて三年目、何か地元のグループに入り活動したいなと思っていた処、私の目に飛び込んできたのが市の公報に載ったふるさと塾の募集だった。早速応募し、翌年の四月から各先生による講義が始まった。記憶によれば生徒の定員は三十名であったが、三十三名が一諸に地元の歴史などを学んだ。仲間の大半が六十代から七十代、いろいろな意味で刺激を受けた。講義の中で印象に残った先生は松尾先生で川越の歴史、とりわけ喜多院や新河岸の舟運の話は、興味深かった。又松尾氏は私の弟の同級生で幼少の頃からの知り合いであったので余計である。講義以外で思い出に残っているのは、いくつかの班に分かれてテーマを決めて自由研究する事であった。私の班のテーマは、「川越の水」という事で、文字通り湧き水から始まり下水に至るまでレポートする事だった。班員は確か五人だったと記憶しているが、これに二人の指導員がついた。湧き水は仙波下、浅間神社下などを調査したが、ここでは今でも尚湧き水が側溝を流れているのに驚かされた。川越の水道の源となる荒川、下水処理が終って流される赤間川、水道局や下水処理場を七人で視察し、研究の発表会に臨んだ。興味深いテーマと相まって発表は、好評であった。そしてテーマ探求と同時に班員同士の絆も深まった様に思う。これに味をしめた私は、以後数年、「ふるさと塾」の運営に携わった。



喜多院でのフィールドワーク



貴重な資料で新河岸川舟運を学ぶ

「ふるさと塾 受講生と運営委員と」

新取 守正

早期退職して歴史遺産に関する大学の通信教育課程で学び、平成22年に卒業するまでの間に京都観光文化検定や奈良まほろば検定に合格できたので、次は地元の小江戸川越検定に挑戦することにした。23年度ふるさと塾を受講修了して、翌年から小江戸塾に加入した。ふるさと塾では歴史や文化、自然や環境、産業や観光などを座学や現地学習を通じて個人ではなかなか学び難いところまで学べて、24年には川越検定に合格できました。

我が家の古女房殿も定年退職を機に、我が町・小江戸川越をより深く知りたいと27年度ふるさと塾を受講することとした。定員に余裕ありとのことだったので私も受講させて貰いました。この時に同じ班で学習し成果発表したメンバーの皆さんは、今も地域活動などで活動されています。我が家の古女房殿は翌年に小江戸塾に加入し、同時にふるさと塾の運営委員に参加しました。私はその一年後から運営委員に参加して現在に至っています。

ふるさと塾運営委員は担当する班の学習をサポートしたり、各講座を分担して講師や現地学習先との調整のほか講座当日の会場設営や進行など、多岐にわたる仕事がありますが、その中で受講生の皆さんのユニークな発想や識見の広さや深さを見聞きしたり、講師の方々の話を聴講することで、新たな発見や気づきを得られることに感謝しています。



川越城本丸御殿



受講風景

ふるさと塾

古山 廣子

友達に川越市内のことを勉強する「ふるさと塾」があることを教えてもらいました。30年以上住んでいて川越市内散策をすることもほとんどなかったのですが、自分の時間ができるとう市内のことを知りたいと思うようになり入塾しました。

その後運営委員の話があり、ふるさと塾の続きをと思い引き受けました。少しずつ市内の歴史の深さがわかると改めてもっと知りたいと思うようになりました。

この「ふるさと塾」は、小江戸塾理事の運営委員が企画・講師との交渉・場所の確保等を設定し、その後は全運営委員で講座を分担して講師との打ち合わせの上で当日の予定等を決めて開催になります。初めて講師との打ち合わせの日は少し緊張しながら先輩について行ったのを思い出しますし、担当講座が終わるまでは不安でした。でも素晴らしい先生とお話しすることができたり、他の講座の受講もでき、いろいろと勉強になりました。

この講座の最後は班ごとの活動で、子供達の活動を想定した企画の発表ですが小江戸塾の活動の基になっていると思いました。また素晴らしい発表を聞いて実際に企画提案できたらと思う内容もたくさんありました。

ふるさと塾の塾生と運営委員をしたことで、普段は入れない所を見ることができたり、気がつかない細かな所まで説明を聞いて、改めて川越の歴史の深さを実感しました。また、活動を通して新しい友達もできて毎日が楽しくなりました。

受講された皆さんもきっと楽しめ、勉強になった「ふるさと塾」だったと思います。



川越唐棧機織り体験



グループ活動発表（修了式）

ふるさと塾の運営に携わって

恵 敏雄

私は平成 26 年度に、友人の勧めでふるさと塾に入塾しました。住んでいる川越の歴史等の講座やグループ活動はとても楽しく、学生時代に戻ったようでした。また、同年代の仲間もできこれからを期待させてくれるものでした。

ふるさと塾を修了して平成 27 年度に小江戸塾に入会し、同時にふるさと塾の運営委員になることになりました。それまで受講生だった私が運営委員になることに不安がありましたが、運営委員の皆さんのおかげで活動できました。講師との打合せ、会場やテキストの準備、講座当日の運営作業等、様々な作業があり新鮮な時間でした。

講座運営の中で私が最も強い印象に残っているのは、学習成果発表会の場で担当していたパソコン・プロジェクターによる画面表示の時に、あるグループの発表で画面がうまく動作しなくなってしまったことです。発表会を中断しいろいろやってもうまくいきません。気は焦るばかりです。結局、プロジェクターの性能が不足していたようです。受講生の前で予想もしていなかったことが起き、事前確認の大切さが身に沁みました。以後は逆にこの経験を活かすことができました。

運営委員になって 7 年が経過しましたが、運営委員の皆さんと楽しく運営ができることは、とてもうれしいことです。更に、結果として多くの受講生がそのまま小江戸塾に入会してくださることを願っています。



開講に向けての準備



グループ討議の支援

「ふるさと塾の運営に携わって」

河村 広雄

「ふるさと塾」の運営に携わることは、挑戦意欲を醸成し心身を活発化することと捉えています。

定年退職後不定期に行うアルバイトの他に、仕事中心のこれまでとは違った日々を楽しく送る為の何かを模索していた時期に巡り合ったのが「ふるさと塾」とその運営委員でした。2016年「ふるさと塾」を受講し、その後これまでに身に着けた経験を活かして自分自身の生活の充実が図れればと、翌年運営委員に応募し運営への参加を始めました。

「ふるさと塾」の受講者、運営に関わる全ての人達は人生経験が大変豊富で、得意とする分野、素晴らしく高い専門能力等をもっており、それは講座の中でも多々見聞できます。加えて講座を担当して頂く著名な講師、講座会場の関係者等との出会いや沢山の学びもあります。そんな環境の中だからこそ、新たな発見や気づきが生まれると同時に、2015年には巡り合えていなかった新たな人々との関係の輪も広がっています。

受講者の皆さんが毎回の講座を楽しみ、最終回の修了証授与式を迎えられる姿は、「ふるさと塾」の運営に携われることへの喜びと感謝の気持ちを一層強くします。又新たに運営委員として一緒に活動できる人を迎えられることは更に喜びと感謝を強くします。

学びの意欲の強い人たちに囲まれ接することで、次は何をやるか！強い刺激も受けません。人との輪も今まで以上に広がり生き甲斐も実感できます。人生100年と言われる時代、新しいことに取り組み、心身共に健康で充実した日々を過ごす活動の一つとして、関係する人達と皆で「ふるさと塾」の運営に取り組んでいきます。



令和元年度 ふるさと塾運営委員が勢ぞろい

「ふるさと塾の運営に携わって」

中島 義則

私は、2017年度の「ふるさと塾」の受講生でした。川越に住み10年ほど経った頃に、川越の街を終の棲家として人生を送るには、“川越のことをもっと知り、愛着を感じて過ごして行かなければ”とっていました。

ちょうどそのころ、知り合いの方からの紹介で、「ふるさと塾」は、川越の「歴史・文化」「自然・環境」「産業・観光」等を学習し、生涯ボランティアとして公民館や学校での体験学習・支援活動に関わっていることを知りました。

実際に半年間の講座を無事終了し、振り返ってみて感じたことは、見事なカリキュラムと講師陣さらにはその運営にあたる運営委員の方との緻密な連携があつてのことだと痛感しました。

翌年から、ぜひ「ふるさと塾」の運営委員として参加して、細やかな運営のサポートをしたいという気持ちになりました。コロナ禍で残念ながら開講が2年間中止となりましたが、2018年度、2019年度と運営委員に携わり、自分なりに満足のいく、やりがいのあった2年間でした。

今後も、私が「ふるさと塾」の受講生であったころの経験を思い出し、運営委員として更なるより良い心の通ったサポートに努めていきたいと思っています。



たまご茸（東洋大学構内）



東洋大学自然観察

「ふるさと塾」と私

2018 年受講 仁平 三枝子

私は、他県から嫁いで川越の地で46年になりますが、育児や家事等で「地元」を学ぶ機会もなく時間が過ぎておりました。そんな最中「ふるさと塾」という名に心を惹かれ入塾致しました。

講師の先生方の熱心なるご指導、運営委員会の皆様やお仲間との楽しい交流、毎日がワクワクし、久しぶりの学生気分を満喫した半年間でした。

交友関係だけでなく「ふるさと塾」の名前にふさわしい川越の歴史や自然を学べた事は大変意義深く、更なる勉強への意欲にもつながっております。個人的には未来へつながるであろう「教育方針の転換」と「ゴミの分別問題」には心動かされました。

小江戸塾活動が21年を迎える2022年。新しい次の10年に向けて益々のご活躍をご祈念申し上げます。お世話になりました皆様方、本当にありがとうございました。



喜多院



グループ学習

新たな出会いが広げる世界・・・ふるさと塾に参加して

2019 年度塾生 中島 裕子

「自分が住む川越はどんな町なのか」。長年このテーマに関心を持っていた私は、ふるさと塾に一も二もなく入塾しました。毎回多彩なプログラムが用意され、講義やフィールドワーク、班による課題解決の活動などを通し、私は川越のよさを再発見し、川越のこれからにも目を向けることができました。それを支えてくれたのが、班のメンバーや運営に携わってくださった役員など、ふるさと塾で出会った方々の存在です。私にとっては、その出会いと交流が現在の小江戸塾での活動に発展したと言えます。「ふるさと塾の目的の一つは仲間づくり」。活動期間中何度となく耳にした言葉でしたが、コロナ禍で人との関わりが希薄にならざるを得ない今、大切な意味が込められていたのだと考えます。ふるさと塾での出会いが私の世界を広げ、新たな活動の場をもたらしてくれました。今後もふるさと塾が仲間と共に楽しく学ぶ場として、塾生や地域の期待に応えていってほしいと願います。

ふるさと塾から新しい場が

土屋 良彦

令和元年度ふるさと塾修了後からのコロナ禍により社会に大きな影響がありました。

個人的には当選した五輪サッカーの日本戦チケットが無観客となり涙目でしたが、ふるさと塾への参加がきっかけでこの渦中においても新たな時間を過ごしています。一つは広報として月報の編集に関わる時間であり、PCにも久しぶりにネット検索や通販以外に本来の資料作成ソフトの活躍の場ができました。

更にシルバー人材センターの紹介で市内の文化財施設で受付案内の仕事に就業し、少しですが世のお役に立っている気がしています。ふるさと塾での川越の歴史自然等への気付きが無ければこの仕事への応募は無かったでしょう。歴史文化施設の為、客層は年配者との思い込みでしたが意外と若者も多く、帰り際には感謝されることも多々あります。これも 20 年の歴史を築いた諸先輩のおかげと感謝し、元気なうちはアクティブに過ごして行く所存です。



入塾式でのグループ初顔合わせ



新河岸川 河岸場跡にて



川越の歴史的建造物（日本聖公会川越キリスト教会）

5. 写真集

バーベキュー大会



焼きそばを作ります



参加のみなさん



「うまいね〜」



みんなで歌いました

クリスマス・フェスティバル



聞き入るみなさん



演奏するミュージックメイト

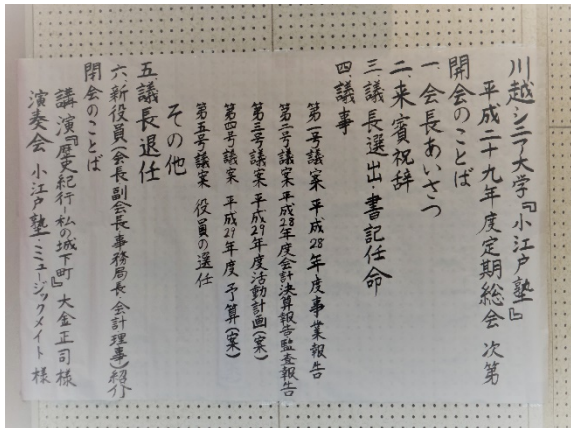


演奏するボイスオブメモリー



休憩コーナー

小江戸塾定期総会



定期総会次第



会長挨拶



報告風景



新役員紹介

理事会



理事会の様子

運営関係写真

月報仕分け作業



1人分の書類を揃えます



揃えた書類を封筒に入れます

小江戸塾説明会



小江戸塾についてふるさと塾修生へ説明



おつかれさまでした

活動打合せ



地域活動打合せ



同窓活動打合せ



ふるさと塾運営委員会

資料編

川越シニア大学『小江戸塾』会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この会は、川越シニア大学『小江戸塾』（以下本会という。）という。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、会長宅に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、市民活動の推進を図り自主的な社会活動参加を促し、もって会員の健康維持と生きがいを高めることを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員相互の交流・親睦及び学習機会の提供。
- (2) 地域活動の企画及び実践。
- (3) 川越シニアカレッジ「ふるさと塾」の企画及び運営。
- (4) その他この会の目的達成に必要なこと。

第3章 会 員

(会 員)

第5条 本会の会員は、川越市シニア大学『小江戸塾』修了生及び川越シニアカレッジ「ふるさと塾」修了生並びに本会の目的に賛同するもの。

(会 費)

第6条 本会の会費は、年額1,000円とし年初に一括納入するものとする。

- 2 本会入会時の入会金は1,000円とし、入会日の属する年度の会費は納入不要とする。

第4章 役 員

(役員の種類、定数及び選任等)

第7条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理 事 若干名
- (2) 監 事 2名
- 2 理事及び監事は総会において、事前に立候補した会員の中から選任する。
- 3 理事のうち1名を会長、2名を副会長、1名を事務局長、2名を会計とする。
- 4 会長、副会長、事務局長、会計は、理事の互選とする。
- 5 監事は、他の役員と兼ねることができない。

(役員任期)

第8条 役員任期は1年とし、再任を妨げない。

- 2 役員はその任期終了後においても後任者が就任するまでは、なお、その職務を代行する。
- 3 補欠又は増員により選任された役員任期は、前任者又は現任者の残存期間とする。

(役員職務)

第9条 会長は、この会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 3 事務局長は、日常業務を統括的に執り行う。
- 4 会計は、会の出納事務を処理し、会計に必要な書類を管理する。
- 5 監事は、会の財産の状況及び職務の執行状況を監査し、その結果を総会に報告する。
- 6 理事は、理事会を構成し、本会の業務を執行する。

(顧問等)

- 第10条 本会に、顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会の推薦により会長がこれを委嘱する。

第5章 会 議

(会 議)

- 第11条 本会の会議は、総会と理事会とする。
- 2 定期総会は、毎年1回開催し、事業報告・決算の承認・事業計画・予算案の承認並びに会則の変更等を審議決定する。但し、会長が必要と認めたとき、又は会員の3分の2以上から総会開催の請求があったときは、臨時に総会を開催することができる。
 - 3 理事会は、第7条に掲げた役員で組織し、会の事業を審議する。
 - 4 総会及び理事会は会長が招集する。

(会議の成立要件並びに議長)

- 第12条 総会は、会員の2分の1以上の、理事会は構成員の2分の1以上の出席をもって成立する。但し、出席できない者は、委任状の提出により出席者の数に加えるものとする。
- 2 総会の議長は会員の中から選出し、理事会は会長もしくは会長が指名した者がこれにあたる。

(議 決)

- 第13条 会議の議決は、出席者の過半数の賛成で決し、賛否同数の場合は、議長がこれを決する。

第6章 会 計

(会計年度)

- 第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日で終わる。

第7章 雑 則

(書類及び帳簿の備付け)

- 第15条 本会の事務所または会長が指定した場所に、次の書類及び帳簿を備えておかなければならない。

- (1) 会 則
- (2) 会員に関する書類
- (3) 役員名簿
- (4) 会員名簿
- (5) 会議議事録
- (6) 収入支出に関する帳簿及び証拠書類
- (7) その他必要な書類及び帳簿

(細 則)

- 第16条 この会則を実施するにあたって必要な細則は、理事会の議決を経て会長がこれを定める。

付 則

(施行期日)

- 1 本会則は、平成14年5月20日から施行する。
- 2 平成15年4月15日会則の一部を改正日より施行する。
- 3 平成16年4月26日会則の一部を改正日より施行する。
- 4 平成18年4月22日会則の一部を改正日より施行する。
- 5 平成19年4月28日会則の一部を改正日より施行する。
- 6 平成23年4月23日会則の一部を改正日より施行する。
- 7 平成27年4月25日会則の一部を改正日より施行する。

川越シニア大学『小江戸塾』細則

(会員資格)

第1条 会則第5条における、会に賛同する者の入会は、理事会の承認を得て認めるものとする。

(会員の遵守事項)

第2条 本会の会員は、本会を通し知り得た会員の個人情報を他人にみだりに漏らしてはならない。

(担当及び委員会)

第3条 本会に次の担当並びに委員会を設ける。

- (1) 同窓活動担当
- (2) 広報担当
- (3) 地域活動担当
- (4) ふるさと塾担当
- (5) 会長が必要と認めた専門委員会

(担当及び委員長)

第4条 担当及び委員長は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

(担当及び委員会の業務)

第5条 担当及び委員会は次の業務を行う。

- (1) 同窓活動担当;会員の仲間づくり、生きがい探しを通じて社会参加を促すための企画と運営活動の推進
- (2) 広報担当;本会の内外情宣活動、広報活動及び会報の編集・発行
- (3) 地域活動担当;地域活動に関する企画とプログラムの実施並びに学習活動の推進
- (4) ふるさと塾担当;川越シニアカレッジ「ふるさと塾」に関する企画及び運営の推進
- (5) 専門委員会;委員会に付託された事項

(会計)

第6条 本会の地域活動で得られた収入は、本会に帰属するものとする。

2 本会の地域活動で発生する経費の一部を、次の基準により支給するものとする。

- (1) 会則第4条の事業遂行で、かつ、本会の活動として位置づけられていること。
- (2) 支給金額は、活動実施に伴う実費(教材費、教材サンプル代)とし、次の枠内とする。
 - ①地域活動1回当たり原則3,000円を限度とする。
 - ②支給は明細書(領収書)をもって、月末現金支払いとする。

付則

本細則は、平成15年3月20日から施行する。

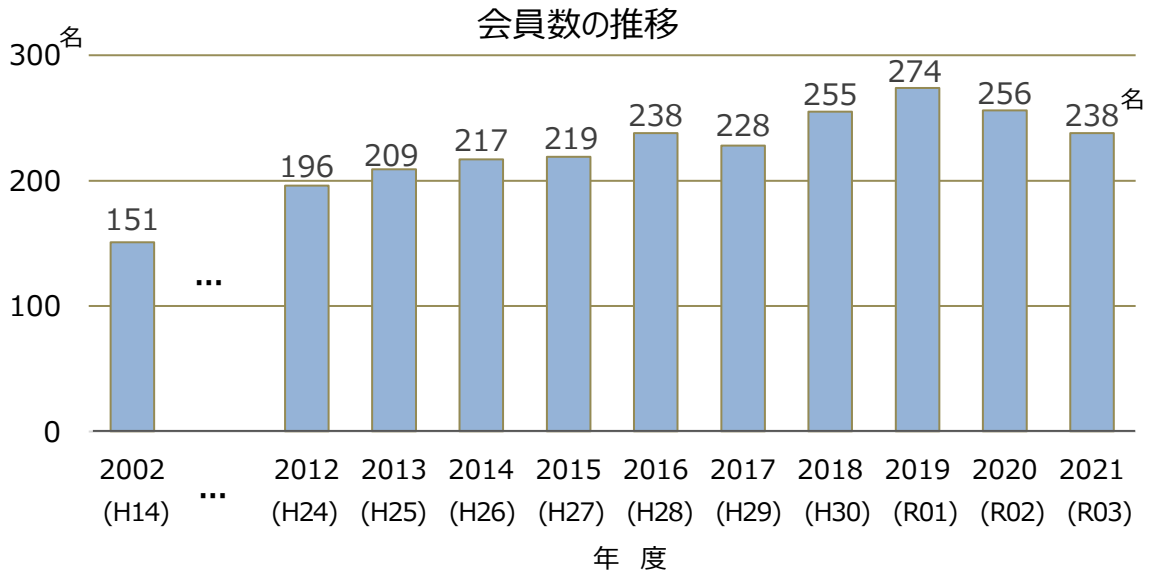
平成16年4月26日改正施行する。

平成19年4月28日改正施行する。

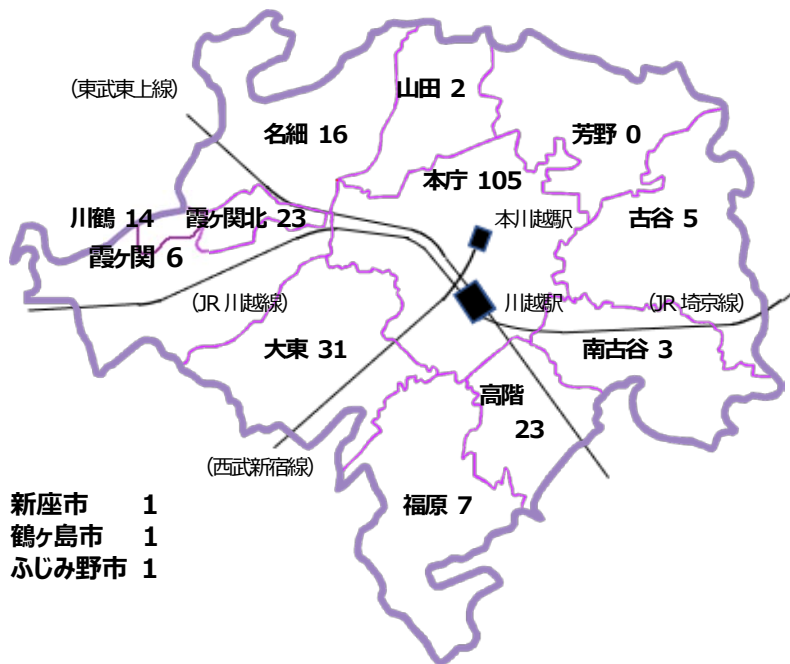
平成22年4月24日改正施行する。

平成27年4月25日改正施行する。

小江戸塾会員状況



会員居住地域



地区	会員数
本庁	105
芳野	0
古谷	5
南古谷	3
高階	23
福原	7
大東	31
山田	2
名細	16
霞ヶ関	6
霞ヶ関北	23
川鶴	14
新座市	1
鶴ヶ島市	1
ふじみ野市	1
合計	238

*地区区分は川越市都市計画マスタープラン地域別構想を参考にした。

歴代役員名簿

役 職	役 員 氏 名				
	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)
会 長	岩本 浩一	大久保 彦	大久保 彦	鈴木 二郎	鈴木 二郎
副 会 長	山崎 有康 大久保 彦	山崎 有康 鈴木 二郎	山崎 有康 鈴木 二郎	山崎 有康 小池 弓子	小池 弓子 金子 隆司
事務局長	小川 義和	笛木 次郎	笛木 次郎	笛木 次郎	笛木 次郎
事 務 局	笛木 次郎	伊藤 敏介	伊藤 敏介 岡部 忠清	伊藤 敏介 岡部 忠清	伊藤 敏介 石井 幸子 竹本 重人
会 計	田中 哲夫 山崎 有康*	田中 哲夫 山崎 有康*	田中 哲夫 野口 和之	田中 哲夫 恵 敏雄	恵 敏雄 林 和博*
広 報	井山 幸之	井山 幸之	生井喜久子 新取 守正	藤川 豊晴 生井喜久子 中竹 安夫	藤川 豊晴 中竹 安夫 生井喜久子
地域活動	根本 允男 伊勢 勢子	根本 允男 小池 弓子	小池 弓子 石井 幸子 小林 茂雄 佐藤 達男	石井 幸子 佐藤 達男 林 和博 志村千枝子	伊勢 勢子 田中喜久雄
同窓活動	鈴木 二郎 小林 英二	鈴木 二郎	中山 和章 中竹 安夫 藤川 豊晴	佐藤 民雄 村田 軍平	佐藤 民雄 村田 軍平 栗田 正巳
ふるさと塾	中山 和章 (運営委員長)	中山 和章 (運営委員長)	井山 幸之 (企画運営委員長)	金子 隆司 (運営委員長) 大久保 彦 (ふるさと塾担当)	林 和博 (運営委員長)
監 事	水田 勇 飯田 静子	水田 勇 飯田 静子	水田 勇 長谷川とみ子	水田 勇 長谷川とみ子	山崎 有康 長谷川とみ子
役員数	16	13	20	21	19

(* 一部再掲)

歴代役員名簿

役 職	役 員 氏 名				
	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
会 長	鈴木 二郎	鈴木 二郎	鈴木 二郎	鈴木 二郎	鈴木 二郎
副 会 長	生井喜久子 金子 隆司	生井喜久子 金子 隆司	生井喜久子 金子 隆司	林 和博 生井喜久子	林 和博 田中喜久雄
事務局長	笛木 次郎	笛木 次郎	笛木 次郎	伊藤 敏介	伊藤 敏介
事 務 局	伊藤 敏介 小川 伸子	伊藤 敏介 小川 伸子	伊藤 敏介 小川 伸子 河村 広雄 恵 敏雄	河村 広雄	河村 広雄 中島 裕子
会 計	恵 敏雄 佐藤 民雄*	恵 敏雄 田中 貞男*	曾我 孝二 宿谷 旭	曾我 孝二 小栗 利雄	曾我 孝二 小栗 利雄
広 報	生井喜久子*	宮原 茂	宮原 茂	中島 義則 佐藤 民雄 宮原 茂	中島 義則 佐藤 民雄 土屋 良彦
地域活動	田中喜久雄	田中喜久雄	田中喜久雄 伊勢 勢子	田中喜久雄 伊勢 勢子	田中喜久雄*
同窓活動	佐藤 民雄 村田 軍平	佐藤 民雄 村田 軍平 田中 貞男	佐藤 民雄 村田 軍平 中島 義則	亀山 薫	亀山 薫 宮原 茂
ふるさと塾	林 和博 (運営委員長)	林 和博 (運営委員長)	林 和博 (運営委員長)	林 和博* (運営委員長)	林 和博* (運営委員長)
監 事	山崎 有康 長谷川とみ子	山崎 有康 長谷川とみ子	山崎 有康 長谷川とみ子	山崎 有康 袴田 敬子	山崎 有康 袴田 敬子
役員数	13	15	19	15	15

(* 一部再掲)

平成24(2012)年度

平成24年4月～平成25年3月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・平成24年度 修了生 36名
- ・平成24年7月～平成24年12月

- ・会員数 (平成25年3月31日) 196名
- ・会長 岩本浩一 ・副会長 山崎有康、大久保彦

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会(平成24年4月21日)、西文化会館メルトで開催
- ・平成24年度「ふるさと塾」開講 企画運営委員会を組織し、理事会と連携し企画運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、暑気払い、餅つき大会、新年の集い
- ・さわやかサロン活動 クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇談会、マジック、歌声集会等
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、史跡めぐりクラブ、書とペン字クラブ、パソコンクラブ、ダンスクラブ、ゴルフクラブ(廃部)
- ・学校支援活動 仙波小学校「新河岸川周辺の川たんけん」
- ・公民館支援活動 中央公民館「まちで遊ぼう」、伊勢原公民館「小畔川自然探検隊」、大東南公民館「みんなの広場」

会報	第37号	第38号	第39号
発行日	2012年5月	2012年10月	2013年1月

会の主な活動

- ・理事会 16回開催(臨時2回含む)し、事業計画、活動報告、計画を確認承認。
- ・全体事業 トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング:8回 史跡めぐり:8回 書とペン字:毎月開催
公民館展示、パソコン:月3回開催、公民館文化祭出展、ダンス月4回
- ・広報活動 事務局月報を各月計12回発行 広報「小江戸塾」を月報に合わせ3回発行
- ・学校支援活動 仙波小支援「新河岸川周辺の川たんけん」座学、実行、発表を通じ実施(公民館) 公民館支援 中央公民館、伊勢原公民館、大東南公民館に加え北公民館の「環境まつり」、障がい者青年学級イベント支援
- ・ふるさと塾 7月～12月にかけて開催

社会の主な出来事

- 国内・3月 家電大手、軒並み業績悪化
- ・8月 消費増税法が成立
 - ・12月 第46回衆院選で自公圧勝、政権奪還
 - ・12月 山中教授にノーベル医学生理学賞
- 海外・4月 北朝鮮、弾道ミサイル2回発射
- ・4月 金正恩氏、第1書記に
 - ・11月 中国トップに習近平氏

平成24年の漢字

金

数多くの「金」字塔が打ち立てられた1年。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男173,443人、女171,853人、合計345,296人(平成24年4月1日現在)
- ・市制施行90周年
- ・川越市シンボルマーク決定
- ・なぐわし公園 PiKOA オープン

平成 25(2013)年度 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・平成 25 年度 修了生 23 名
- ・平成 25 年 7 月～平成 25 年 12 月

- ・会員数 (平成 26 年 3 月 31 日) 209 名
- ・会長 岩本浩一 ・副会長 山崎有康, 大久保 彦

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会
- ・平成 25 年度「ふるさと塾」開講 企画運営委員会を組織し、理事会と連携し企画運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、カラオケ同好会、暑気払い、新年の集い、蕎麦打ち・みかん狩りツアー、歌声喫茶
- ・さわやかサロン活動(会員の交流) 各部クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇談等
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、史跡めぐりクラブ、書とペン字クラブ、パソコンクラブ
- ・学校支援活動 仙波小学校「新河岸川周辺の川たんけん」
第一小学校「川越の名人にズームイン」
- ・公民館支援活動 中央公民館、伊勢原公民館、大東南公民館、北公民館

会報	第 4 0 号	第 4 1 号	第 4 2 号
発行日	2013 年 5 月	2013 年 10 月	2014 年 2 月

会の主な活動

- ・理事会 17 回開催(臨時 3 回含む)し、事業計画、活動報告、計画を確認承認。
- ・全体事業 トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング：10 回 史跡めぐり：9 回 書とペン字：毎月開催
公民館にも展示、パソコン：月 3 回開催、公民館文化祭に出展
- ・広報活動 事務局月報を毎月計 12 回発行 会報「小江戸塾」を月報に合わせ 3 回発行
- ・学校支援活動 仙波小支援「新河岸川周辺の川たんけん」座学、実行、発表を通じ実施(公民館) 公民館支援 中央公民館、伊勢原公民館、大東南公民館に加え北公民館の「環境まつり」、伊勢原公民館の障害者、第一小学校イベント支援
- ・ふるさと塾 7 月～12 月にかけて全 12 回開催、23 名が終了 19 名が「小江戸塾」入会

社会の主な出来事

- 国内・9 月 2020 年夏季五輪、東京開催決定
- ・10 月 消費増税、14 年 4 月実施を決定
- ・12 月 特定秘密保護法が成立
- ・12 月 「徳洲会 5000 万円」で猪瀬都知事辞職
- 海外・1 月 アルジェリアで人質事件、邦人 10 人犠牲に
- ・10 月 中国・天安門前に車突入、不穏な事件続発
- ・11 月 中国が尖閣上空に「防空識別圏」

平成 25 年の漢字

輪

日本中が「輪」になって歓喜にわいた年。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男 174,191 人、女 172,819 人、合計 347,010 人(平成 25 年 4 月 1 日現在)
- ・東上線と東急東横線・横浜高速みなとみらい線の相互直通運転開始

平成26(2014)年度

平成26年4月～平成27年3月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・平成26年度 修了生 28名
- ・平成26年7月～平成26年12月

- ・会員数 (平成27年3月31日) 217名
- ・会長 大久保彦 ・副会長 山崎有康, 鈴木二郎

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会(平成26年4月26日)中央図書館で開催
- ・平成26年度「ふるさと塾」開講 企画運営委員会を組織し、理事会と連携企画運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、カラオケ同好会、暑気払い、新年の集い、蕎麦打ちみかん狩りツアー、歌声喫茶
- ・さわやかサロン活動(会員の交流)各部クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇談等
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、史跡めぐりクラブ、書とペン字クラブ、パソコンクラブ
- ・学校支援活動 仙波小学校 「新河岸川周辺の川たんけん」
- ・公民館支援活動 中央公民館「まちで遊ぼう」、伊勢原公民館「小畔川自然探検隊」、川鶴公民館活動支援、伝承遊び王、自然とともだち

会報	第43号	第44号	第45号
発行日	2014年5月	2014年10月	2015年1月

会の主な活動

- ・理事会 15回開催(臨時1回含む)し、事業計画、活動報告、計画を確認承認。
- ・全体事業 トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング:11回 史跡めぐり:9回 書とペン字:毎月開催
公民館展等出展、パソコン:月3回開催、公民館文化祭に出展
- ・広報活動 各月に月報発行 また小江戸塾会報を3回発行
- ・学校支援活動 仙波小支援「新河岸川周辺の川たんけん」中央公民館9回、伊勢原公民館3回に加え「小畔川自然探検」開催 公民館まつり支援として北公民館の「環境まつり」、中央公民館「きずな祭」「科学おもちゃ工作」支援
- ・ふるさと塾 7月～12月 計12回開催 28名修了

社会の主な出来事

- 国内・8月 広島で土砂災害、74人死亡
- ・9月 御嶽山が噴火、57人死亡6人不明
 - ・12月 衆院選で与党圧勝
 - ・12月 日本人3人にノーベル物理学賞
- 海外・4月 韓国旅客船事故で304人死亡・不明
- ・12月 エボラ出血熱感染拡大、死者6000人
 - ・12月 米、キューバが国交正常化へ

平成26年の漢字

税

消費「税」率が17年ぶりに引き上げられる。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男174,930人、女173,793人、合計348,723人(平成26年4月1日現在)
- ・川越駅西口駅前広場改修事業完成
- ・「川越市市民センター条例」施行(出張所から市民センターへ)
- ・大東市民センターオープン

平成 27(2015)年度 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・平成 27 年度 修了生 43 名
- ・平成 27 年 7 月～平成 28 年 1 月

- ・会員数 (平成 28 年 3 月 31 日) 219 名
- ・会長 鈴木二郎 ・副会長 山崎有康、小池弓子

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会(平成 27 年 4 月 25 日)中央図書館で開催
- ・平成 27 年度「ふるさと塾」開講 ふるさと塾運営委員会を設置して運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、カラオケ同好会、歌声喫茶、暑気払い、蕎麦打ちみかん狩りツアー、フィールドウォッチ、新年の集い
- ・さわやかサロン活動(会員の交流)各部クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇談等
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、史跡めぐりクラブ、書とペン字クラブ、パソコンクラブ
- ・学校支援活動 仙波小学校「新河岸川周辺の探検」
- ・公民館支援活動 中央公民館(まちで遊ぼう)、伊勢原公民館(小畔川自然探検隊)、自然とともだち、伝承遊び王

会報	第 4 6 号	第 4 7 号	第 4 8 号
発行日	2015 年 5 月	2015 年 9 月	2016 年 1 月

会の主な活動

- ・理事会 17 回開催(臨時 1 回含む)し、事業計画、活動報告、計画を確認承認。
- ・全体事業 トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング:9 回 史跡めぐり:10 回 書とペン字:毎月開催
公民館展等出展、パソコン:月 3 回開催、公民館文化祭に出展
- ・広報活動 事務局月報を毎月計 12 回発行 会報「小江戸塾」を月報に合わせ 3 回発行
- ・学校支援活動 仙波小支援「新河岸川周辺の川たんけん」中央公民館 9 回、伊勢原公民館(公民館)2 回に加え「小畔川自然探検」開催
公民館まつり支援として中央公民館「きずな祭」「科学おもちゃ工作」支援

社会の主な出来事

- 国内・1 月 IS が邦人人質殺害
- ・9 月 安全保障関連法が成立
- ・10 月 辺野古移設、国が着工
- ・12 月 日本人科学者 2 人がノーベル賞
- 海外・1 月 世界各地でイスラム過激派のテロ
- ・7 月 ギリシャ金融危機
- ・11 月 COP21 でパリ協定採択

平成 27 年の漢字

安

世界で頻発するテロ事件や異常気象など、人々を不「安」にさせた年。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男 175,186 人、女 174,202 人、合計 349,388 人(平成 27 年 4 月 1 日現在)
- ・市の新たな中心市街地活性化基本計画を国が認定
- ・ウエスタ川越オープン
- ・元町休憩所オープン

平成28(2016)年度

平成28年4月～平成29年3月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・平成28年度 修了生 34名
- ・平成28年7月～平成29年1月

- ・会員数 (平成29年3月31日) 238名
- ・会長 鈴木二郎 ・副会長 小池弓子, 金子隆司

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会(平成28年4月23日)、中央図書館で開催
- ・平成28年度「ふるさと塾」開講 運営委員会を設置して運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、カラオケ同好会、歌声喫茶、フィールドウォッチ、暑気払い、蕎麦打ちを楽しむ会、新年の集い
- ・さわやかサロン活動(会員の交流) 各部クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇談等
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、史跡めぐりクラブ、書とペン字クラブ、パソコンクラブ
- ・学校支援活動 仙波小学校 総合学習 「新河岸川周辺の探検」
- ・公民館活動 中央公民館(まちで遊ぼう)、伊勢原公民館(自然とともだち、伝承遊び王、小畔川自然探検隊)

会報	第49号	第50号	第51号
発行日	2016年5月	2016年9月	2017年1月

会の主な活動

- ・理事会 13回開催(臨時1回含む)し、事業計画、活動報告、計画を確認承認。
- ・全体事業 トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング:10回 史跡めぐり:8回 書とペン字:毎月開催
公民館展等出展、パソコン:月3回開催、公民館文化祭に出展
- ・広報活動 事務局月報を毎月計12回発行 会報「小江戸塾」を月報に合わせ3回発行
- ・学校支援活動 仙波小支援「新河岸川周辺の探索」中央公民館9回、伊勢原公民館(公民館)2回に加え「小畔川自然探検」開催
- ・ふるさと塾 7月～1月成果発表含め16回開催 34名修了 31名小江戸塾入会

社会の主な出来事

- 国内・1月 日銀、マイナス金利を初導入
- ・4月 熊本地震、死者150人超
 - ・5月 オバマ米大統領、歴史的な広島訪問
 - ・8月 リオ五輪、過去最多41メダル
- 海外・6月 英国がEU 離脱決定
- ・11月 米大統領選でトランプ氏勝利
 - ・11月 地球温暖化対策のパリ協定発効

平成28年の漢字

金

リオ五輪に沸き勝ち取った「金」と、政治と「金」問題に揺れた年。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男175,719人、女174,738人、合計350,457人(平成28年4月1日現在)
- ・第四次川越市総合計画スタート
- ・旧山崎家別邸一般公開開始
- ・「川越氷川祭の山車行事(川越まつり)」が「ユネスコ無形文化遺産」に登録される

平成29(2017)年度 平成29年4月～平成30年3月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・平成29年度 修了生 28名
- ・平成29年7月～平成30年1月

- ・会員数 (平成30年3月31日) 228名
- ・会長 鈴木二郎 ・副会長 生井喜久子、金子隆司

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会(平成29年4月22日)中央図書館で開催
- ・平成29年度「ふるさと塾」開講 運営委員会を設置して運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、蕎麦打ちを楽しむ会、カラオケ同好会、歌声喫茶、フィールドウォッチ、暑気払い、新年の集い
- ・さわやかサロン活動(会員の交流)各部クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇談等
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、史跡めぐりクラブ、書道クラブ、パソコンクラブ
- ・学校支援活動 仙波小学校 総合学習「新河岸川周辺の探索」
- ・公民館支援活動 中央公民館(まちで遊ぼう) 伊勢原公民館(自然とともだち、伝承遊び王、小畔川自然探検隊)

会報	第52号	第53号	第54号
発行日	2017年5月	2017年11月	2018年3月

会の主な活動

- ・理事会 13回開催し、事業計画、活動報告、計画を確認承認。
- ・全体事業 トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング:12回 史跡めぐり:9回 書とペン字:毎月開催
公民館展等出展、パソコン:月3回開催、公民館文化祭に出展
- ・広報活動 事務局月報を毎月計12回発行 会報「小江戸塾」を月報に合わせ3回発行
- ・学校支援活動 仙波小支援「新河岸川周辺の探索」中央公民館9回、伊勢原公民館(公民館) 2回に加え「小畔川自然探検」9回開催
- ・ふるさと塾 7月～1月成果発表含め16回開催 28名修了 22名小江戸塾入会

社会の主な出来事

- 国内・6月「共謀罪」法が成立
- ・6月 将棋の藤井四段が29連勝
- ・7月 九州北部豪雨で死者・不明41人
- ・10月 衆院選で自民大勝、民進が分裂
- 海外・2月 マレーシア空港で金正男氏暗殺
- ・7月 国連、核禁止条約採択
- ・9月 北朝鮮、核・ミサイル開発加速

平成29年の漢字

北

「北」朝鮮ミサイルや九州「北」部豪雨災害等に平和・安全の尊さを実感。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男176,356人、女175,507人、合計351,863人(平成29年4月1日現在)
- ・「武蔵野の落ち葉堆肥農法」日本農業遺産認定
- ・新斎場オープン
- ・新河岸駅自由通路・橋上駅舎完成

平成 30(2018)年度

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・平成 30 年度 修了生 32 名
- ・平成 30 年 7 月～平成 31 年 1 月

- ・会員数 (平成 31 年 3 月 31 日) 255 名
- ・会長 鈴木二郎 ・副会長 生井喜久子、金子隆司

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会（平成 30 年 4 月 28 日）中央図書館で開催
- ・平成 30 年度「ふるさと塾」開講 ふるさと塾運営委員会を設置し運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、蕎麦打ちを楽しむ会、カラオケ同好会、歌声喫茶、フィールドウォッチ、暑気払い、新年の集い
- ・さわやかサロン活動（会員の交流）各部クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇談等
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、史跡めぐりクラブ、書道クラブ、パソコンクラブ
- ・学校支援活動 仙波小学校 総合学習「新河岸川周辺の探索」
- ・公民館支援活動 中央公民館（まちで遊ぼう）、伊勢原公民館（小畔川自然探検隊、伝承遊び王、自然とともだち）

会報	第 5 5 号	第 5 6 号	第 5 7 号
発行日	2018 年 6 月	2018 年 10 月	2019 年 3 月

会の主な活動

- ・理事会 13 回開催し、事業計画、活動報告、計画を確認承認。
- ・全体事業 トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング：12 回 史跡めぐり：9 回 書道：毎月開催
公民館展等出展、パソコン：月 3 回開催、公民館文化祭に出展
- ・広報活動 事務局月報を毎月計 12 回発行 会報「小江戸塾」を月報に合わせ 3 回発行
- ・学校支援活動 仙波小支援「新河岸川周辺の探索」中央公民館 9 回、伊勢原公民館（公民館） 2 回に加え「小畔川自然探検活動」7 回開催
- ・ふるさと塾 7 月～1 月成果発表含め 16 回開催 32 名修了 22 名小江戸塾入会

社会の主な出来事

- 国内・6 月 財務省が森友文書改ざん
- ・7 月 オウム松本元死刑囚らの刑執行
 - ・7 月 日銀が政策修正、金利上昇容認
 - ・11 月 日産ゴーン会長を逮捕
- 海外・4 月 朝鮮半島非核化、南北首脳が合意
- ・6 月 米朝が史上初の首脳会議
 - ・7 月 米中貿易摩擦が激化

平成 30 年の漢字

災

地震、豪雨、大型台風、記録的猛暑等の自然「災」害に遭遇した年。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男 176,489 人、女 175,929 人、合計 352,418 人(平成 30 年 4 月 1 日現在)
- ・特記事項なし

令和元(2019)年度 令和元年4月～令和2年3月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

- ・令和元年度 修了生 29名
- ・令和元年7月～令和元年1月

- ・会員数 (令和2年1月31日) 274名
- ・会長 鈴木二郎・副会長 生井喜久子、金子隆司

会のトピックス

- ・定期総会 4月27日 中央図書館にて開催
- ・令和元年度「ふるさと塾」開講 ふるさと塾運営委員会を設置し運営
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、蕎麦の会、カラオケ、歌声、フィールドウォッチ、暑気払い、新年の集い
- ・さわやかサロン活動(会員の交流)各クラブ活動の展示、打ち合わせ、懇親等
- ・クラブ活動 ハイキング、史跡めぐり、書道、パソコンクラブ等
- ・学校支援活動 仙波小、総合学習 「新河岸川周辺の探索」
- ・公民館活動 中央公民館 まちで遊ぼう 伊勢原公民館 小畔川自然探検隊 伝承あそび王 自然と友達

会報	第58号	第59号	第60号
発行日	2019年6月	2019年10月	2020年3月

会の主な活動

- ・理事会 13回 事業計画、活動報告、活動計画を承認
- ・トピックス記載の行事を会員の親睦、懇親、意見交換を目的に実施
- ・クラブ活動 ハイキング、史跡めぐりは暑い時期を除き計画実施、書道 毎月開催、公民館展等出展、パソコン 月3回開催 公民館文化祭出展、
- ・広報活動 月報各月計12回発行 会報「小江戸塾」を月報発行に合わせ3回発行
- ・学校支援活動等 仙波小支援「新河岸川自然探検」中央公民館9回、伊勢原公民館「小畔川自然探検隊」等9回
- ・ふるさと塾 7月～1月成果発表含め16回開催 29名修了し 20名が小江戸塾入会

社会の主な出来事

- 国内・1月 政府月例経済報告「戦後最長の景気回復」を表明
- ・5月 「平成」から「令和」に改元
- ・6月 G20 大阪サミット開催
- ・9月 ラグビーワールドカップ2019が日本で開催
- 海外・4月 ノートルダム大聖堂で大火災
- ・10月 北朝鮮、新型SLBM 発射
- ・11月 米、「パリ協定」離脱を国連に通告

令和元年の漢字
令

新元号「令」和に新たな時代の希望を感じた一年。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男176,705人、女176,373人、合計353,078人(令和元年4月1日現在)
- ・旧山崎家別邸が重要文化財に指定される

令和 2(2020)年度

令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」

川越シニア大学『小江戸塾』

新型コロナウイルス感染症拡大防止
のため中止

・会員数 (平成 3 年 3 月 31 日) 256 名
・会長 鈴木二郎 ・副会長 生井喜久子, 林 和博

会の
トピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会中止
- ・令和 2 年度「ふるさと塾」開催中止
- ・全体事業 バーベキュー大会、料理を楽しむ会、蕎麦打ちを楽しむ会、カラオケ同好会、
歌声喫茶、フィールドウオッチは全行事中止 俳句の会は活動
- ・クラブ活動 ハイキングクラブ、書道クラブ、パソコンクラブは活動 史跡めぐりクラブ
は全行事中止
- ・学校支援活動 仙波小学校「新河岸川周辺の探索」は中止
- ・公民館支援活動 中央公民館 折紙・お手玉は実施、他は全て中止
伊勢原公民館 御伊勢塚公園の樹木のみ実施

会報	第 6 1 号		
発行日	2021 年 1 月		

会の
主な活動

- ・理事会 コロナ禍により 4 月～8 月、12 月～2 月中止
- ・全体活動 例年の活動はすべて中止
- ・クラブ活動 コロナ禍により規模回数を縮小して一部開催
ハイキング：6 回 書道 6 回 俳句の会 5 回
パソコン：1 月～3 月 月 3 回開催
- ・広報活動 月報を 8 月まで休止 会報「小江戸塾」新年号のみ発行
- ・地域活動 中央公民館 折り紙お手玉、
伊勢原公民館 御伊勢塚公園の樹木のみ開催
- ・ふるさと塾 中止

社会の主な
出来事

- 国内・ 3 月 東京五輪、1 年延期
- ・ 4 月 新型コロナ猛威、初の緊急事態宣言
 - ・ 7 月 九州で豪雨、死者多数
 - ・ 9 月 安倍首相が退陣、後任に菅氏
- 海外・ 3 月 WHO パンデミック宣言
- ・ 5 月 米黒人男性死亡、抗議拡大
 - ・ 5 月 米、WHO 脱退

令和 2 年の漢字

密

新型コロナウイルス流行の影響
から、3「密」の言葉が提唱された。

川越市の
出来事

- ・川越市の人口 男 176,711 人、女 176,745 人、合計 353,456 人(令和 2 年 4 月 1 日現在)
- ・新型コロナウイルス感染症の流行
- ・川越市民サービスステーションオープン

令和 3(2021)年度 令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」塾

川越シニア大学『小江戸塾』

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

・会員数 (令和3年3月31日) 238名
・会長 鈴木二郎 ・副会長 田中喜久雄, 林 和博

会のトピックス

- ・川越シニア大学「小江戸塾」定期総会（令和3年4月24日）中止
 - ・令和3年度「ふるさと塾」中止
 - ・全体事業 俳句の会、蕎麦の会、公園ウォークは実施、他は中止
 - ・さわやかサロン活動（会員の交流） ボイスオブメモリー、ニューイヤーミニコンサート
 - ・クラブ活動 ハイキングクラブ、書道クラブ、パソコンクラブ、史跡めぐりクラブは一部実施
 - ・学校支援活動 仙波小学校「新河岸川周辺の探索」は中止
 - ・公民館支援活動 中央公民館 多くの行事中止
伊勢原公民館 多くの行事中止
- | | | | |
|-----|------------|-------------|------------|
| 会報 | 第 62 号 | 第 63 号 | 第 64 号 |
| 発行日 | 2021 年 5 月 | 2021 年 10 月 | 2022 年 1 月 |

会の主な活動

- ・理事会 4月理事会で総会及び活動中止決定、11月～1月開催も2, 3月中止
- ・全体活動 例年の活動はすべて中止
- ・クラブ活動 コロナ禍により規模回数を縮小して一部開催
ハイキング：5回 書道8回 俳句の会5回
パソコン：9月10月中止 8月以外3回開催
- ・広報活動 月報を8月月～10月休止 会報「小江戸塾」3回発行
- ・地域活動 中央公民館のペットボトルロケット等4回以外は中止、
- ・ふるさと塾 中止

社会の主な出来事

- 国内・2月 新型コロナワクチン接種スタート
- ・7月 東京五輪最多58メダル
- ・7月 熱海で土石流
- ・11月 大谷メジャーMVP
- 海外・1月 米、バイデン大統領就任
- ・2月 ミャンマー国軍がクーデター
- ・8月 世界のコロナ感染者2億人超

令和3年の漢字

金

東京オリ・パラでの日本選手の活躍等により、「金」字塔がひとときわ輝いた。

川越市の出来事

- ・川越市の人口 男 176,651人、女 176,791人、合計 353,442人(令和3年4月1日現在)
- ・子育て安心施設「すくすくかわごえ」オープン
- ・東京 2020 オリンピック、ゴルフ競技が川越で開催される

編集後記

川越シニア大学『小江戸塾』が20周年の節目を迎え、こうして20周年記念誌の発行をすることができました。最後の二年は世界中が中国を発生源とする新型コロナウイルスに翻弄され、ふるさと塾が中止になり地域活動・同窓活動も制限をされました。

そんな中、理事会で記念誌発行についての提案（総ページ100程度・総カラー・予算を逸脱しない）が承認され編集委員会が発足しました。編集方針と作業日程を指示し、作業は編集の経験がある恵敏雄氏を編集長とし、編集委員8人全員で行いました。

昨年11月から原稿の収集が始まり、本年2月には掲載予定の原稿が揃い、小江戸塾の活動に参加して感じたことなど、多くの思い出が寄せられました。表紙には佐藤民雄編集委員の友人の水彩画をお借りすることができました。小江戸塾の歴史資料に使用する総会資料が手元になく苦慮していたところ、監事の山崎有康氏から拝借できまとめることが出来ました。スナップ写真は石井幸子氏、小池弓子氏から沢山の画像をいただきました。

ご寄稿いただいた川越市長川合善明様をはじめとする多くの皆様、資料をご提供いただいた皆様、誠にありがとうございました。そして編集会議、校正作業にあたってきた委員の皆様、お疲れさまでした。また、鈴木会長には編集委員会に全て参加して作業に加わっていただくと共に、貴重な助言もいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

本記念誌が次の小江戸塾の活動の充実と更なる発展につながることを祈念してやみません。

2022年9月
小江戸塾20周年誌編集委員会
委員長 林 和博

編集委員	恵 敏雄	中島裕子	佐藤民雄	田中喜久雄
	亀山 薫	中島義則	土屋良彦	

〈 裏表紙ロゴの説明 〉



「市のシンボルマーク」
時が人を結ぶまち川越



「市制施行 100 周年記念ロゴマーク」
時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越

〈 掲載写真について 〉

原稿と一緒に提供頂いた写真のうち一部の写真については、ページ編集の都合により割愛させて頂きました。また、文章のみの原稿においてページ余白がある場合には、皆様から提供頂いた写真の中から原稿内容にふさわしい写真を選び掲載させて頂きました。この場合、原稿作者と写真提供者が異なりますがご了承ください。

川越シニア大学『小江戸塾』20周年記念誌

『小江戸塾』10年の歩み

(2012年度～2021年度)

発行日 : 2022年(令和4年)9月1日

発行 : 川越シニア大学『小江戸塾』

会長 鈴木 二郎

編集 : 小江戸塾20周年記念誌編集委員会

印刷 : 日本ワントゥワンソリューションズ株式会社

川越市脇田本町 6-31 KJ 第2ビル

時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越

